

第6章 総括

【共通項目】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

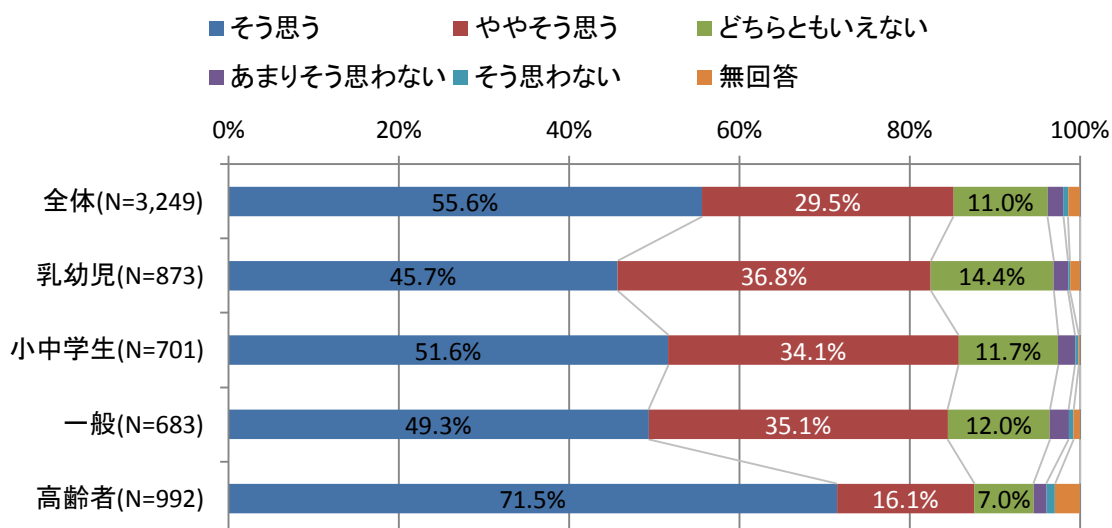
1 地域活動について

【地域の課題に取り組む重要性の認識と活動について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

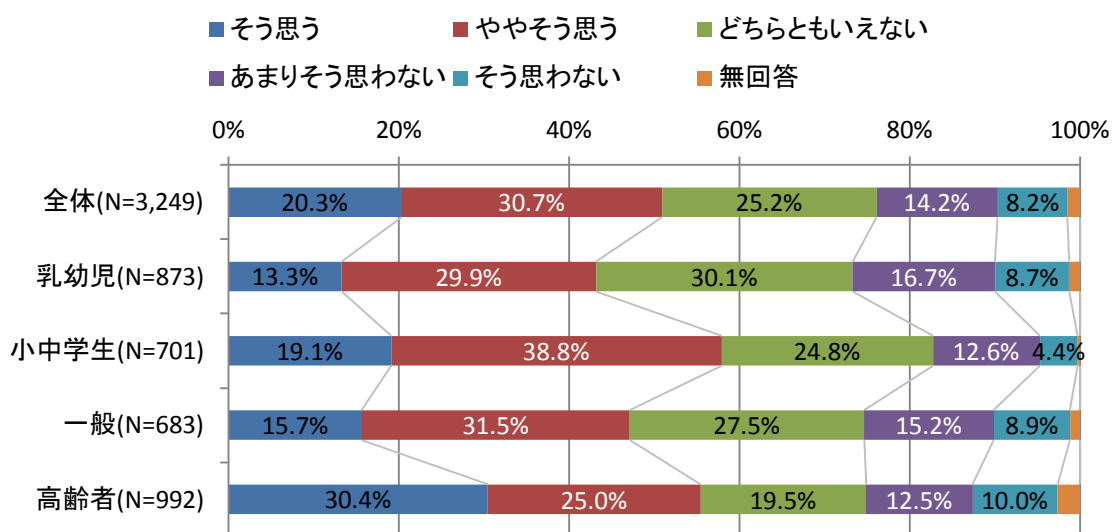
地域住民が一緒になって、地域課題に取り組むことは重要だと思うことについては、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、全体で85.1%、乳幼児が82.5%、小中学生が85.7%、一般が84.4%、高齢者が87.6%となっている。

地域住民が一緒になって、地域課題に取り組んでいると思うかについては、「そう思う」と「ややそう思う」の合計が、全体で51.0%、乳幼児が43.2%、小中学生が57.9%、一般が47.2%、高齢者が55.4%となっている。

（地域の課題に取り組む重要性の認識について）



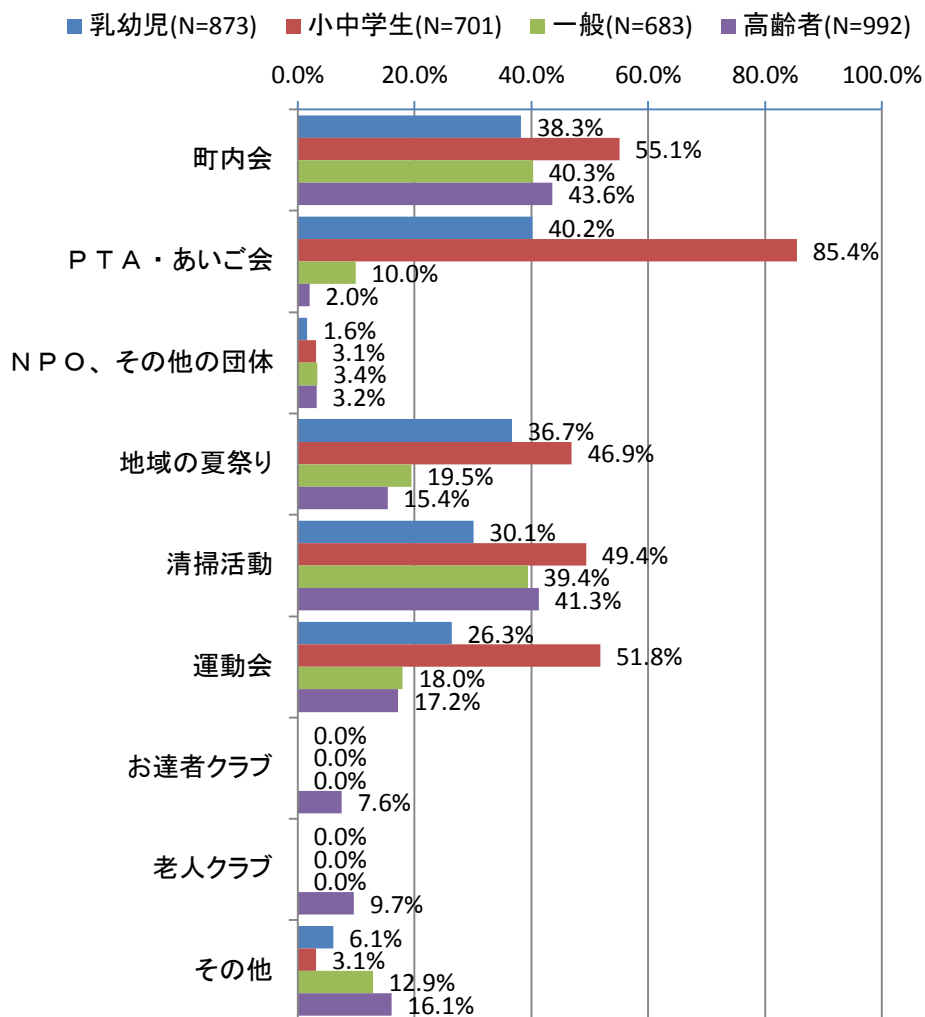
（地域の課題への活動について）



【地域活動の参加状況について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

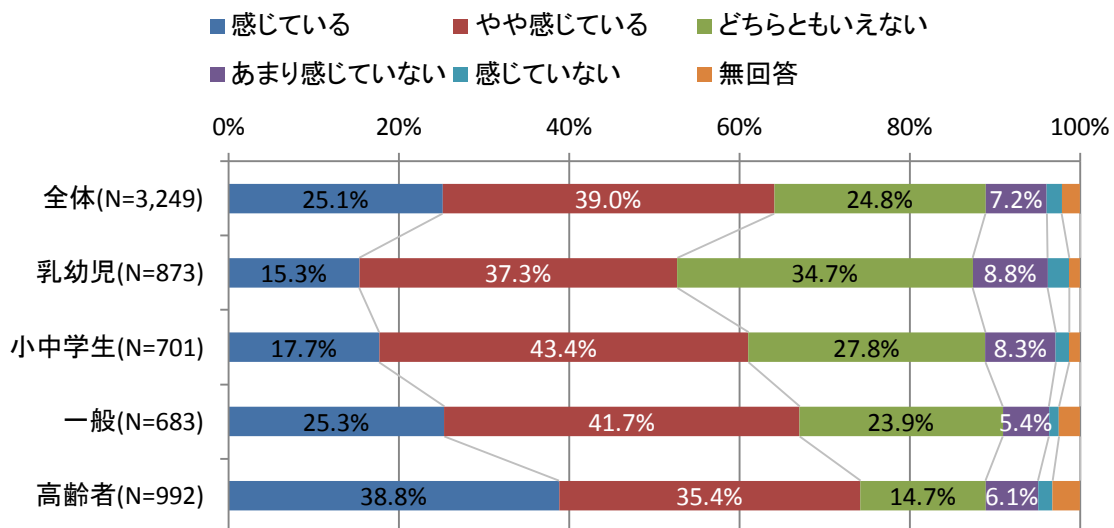
地域活動の参加内容については、小中学生の「PTA・あいご会」が約9割、「町内会」、「運動会」、「清掃活動」、「地域の夏祭り」が約5割となっている。

なお、乳幼児については「町内会」、「PTA・あいご会」、「地域の夏祭り」が約4割、一般については「町内会」、「清掃活動」が約4割、高齢者については「町内会」、「清掃活動」が約4割となっている。



【鹿児島市の暮らしへの安心安全度について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

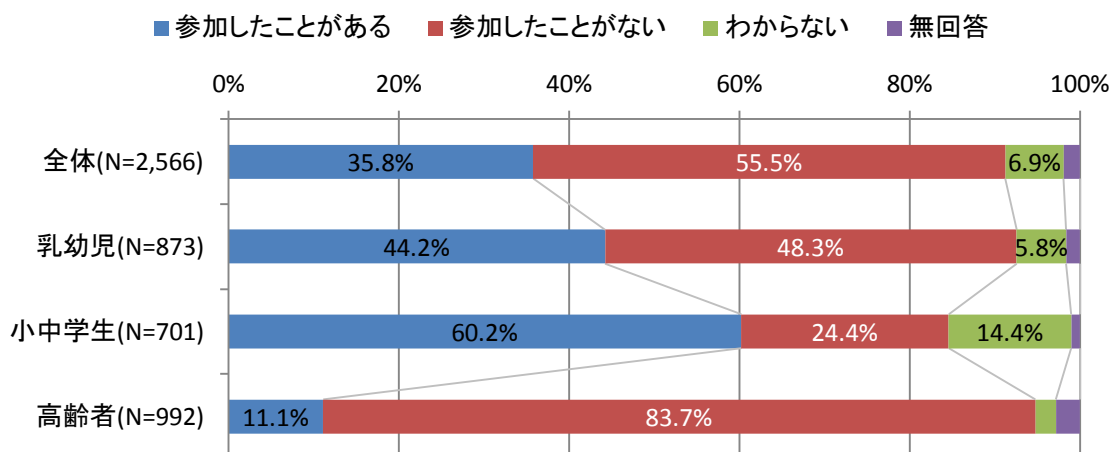
鹿児島市の暮らしに安心安全を感じているかについて、「感じている」と「やや感じている」の合計が、全体で 64.1%、乳幼児が 52.6%、小中学生が 61.1%、一般が 67.0%、高齢者が 74.2%となっている。



2 交通安全について

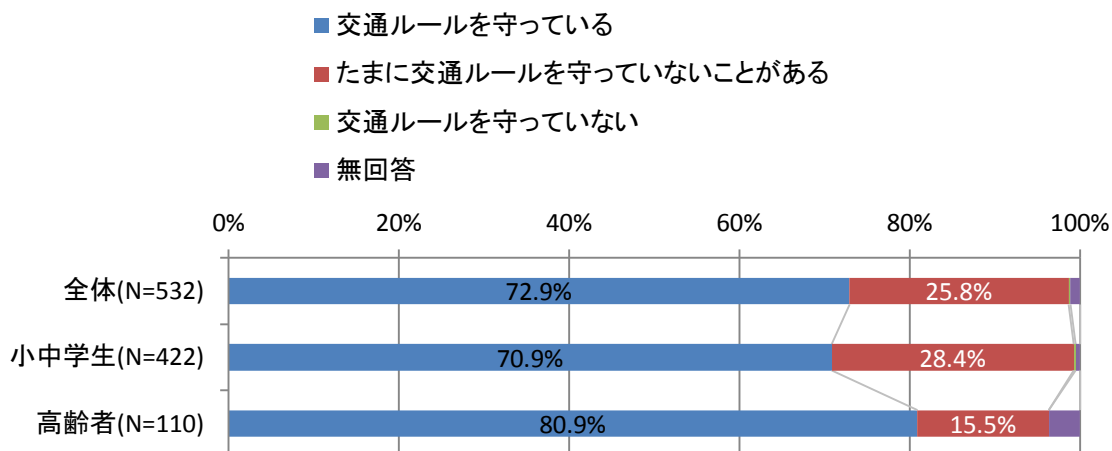
【交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について】（乳幼児・小中学生・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」（乳幼児区分は、「参加したことがある」と「保護者と一緒に参加したことがある」の合計）が、全体で35.8%、乳幼児が44.2%、小中学生が60.2%、高齢者が11.1%となっている。



【交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守について】 （小中学生・高齢者）

交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が、全体で72.9%、小中学生が70.9%、高齢者が80.9%となっている。



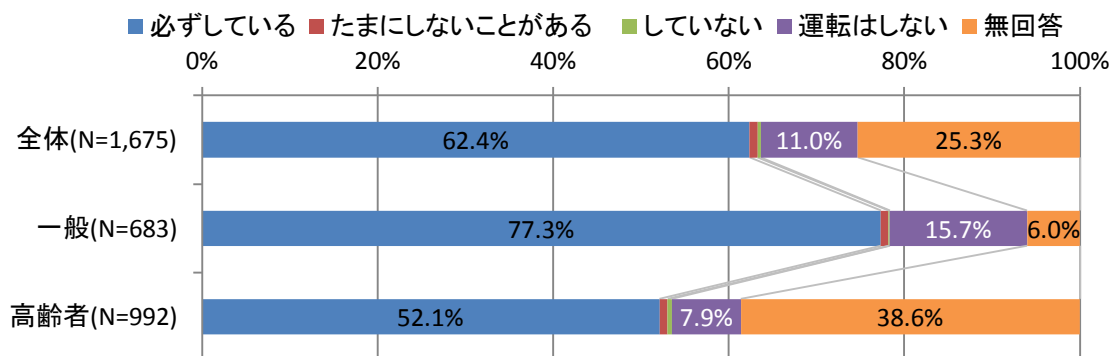
【シートベルト着用状況について】（一般・高齢者）

運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で62.4%、一般が77.3%、高齢者が52.1%となっている。

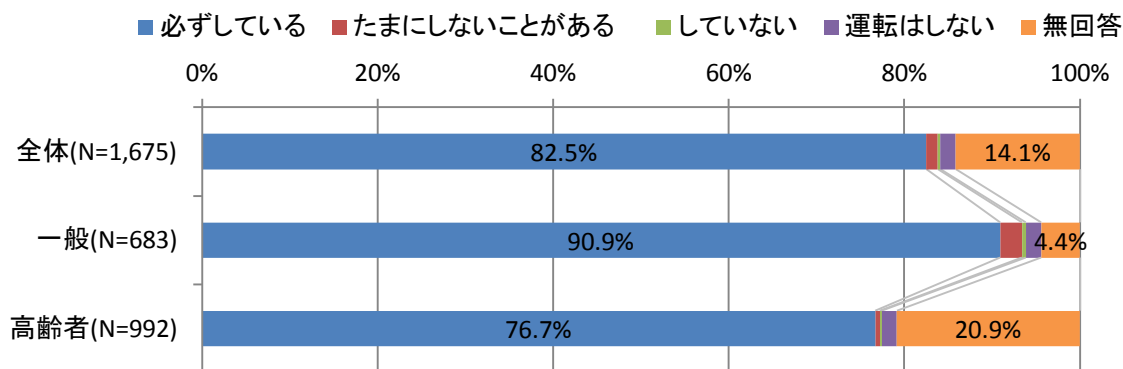
助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で82.5%、一般が90.9%、高齢者が76.7%となっている。

後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で23.1%、一般が16.0%、高齢者が28.0%となっている。

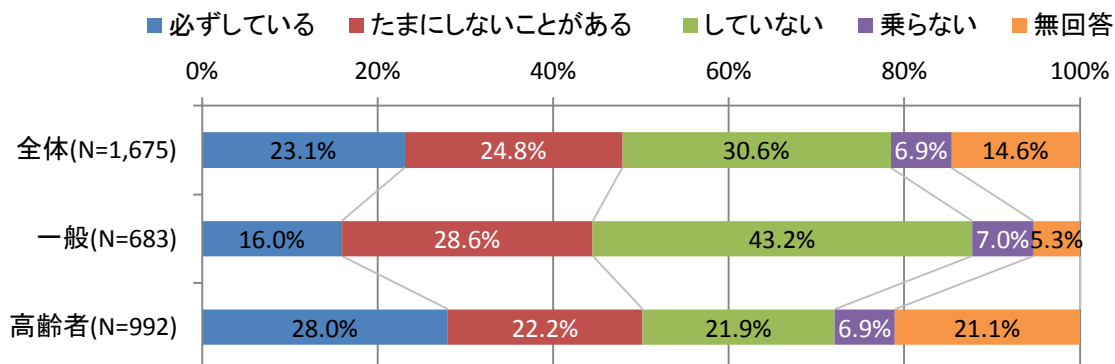
（運転席）



（助手席）



（後部座席）



3 暴力について

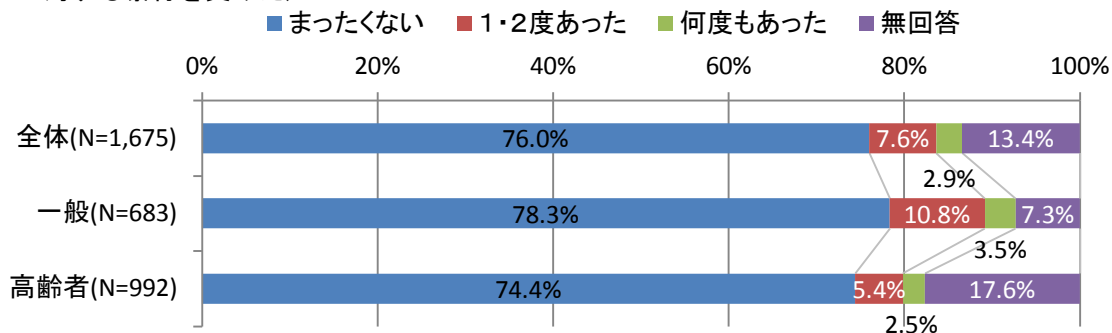
【配偶者や交際相手からのDVについて】（一般・高齢者）

配偶者や交際相手からの「身体に対する暴行を受けた等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で10.5%、一般が14.3%、高齢者が7.9%となっている。

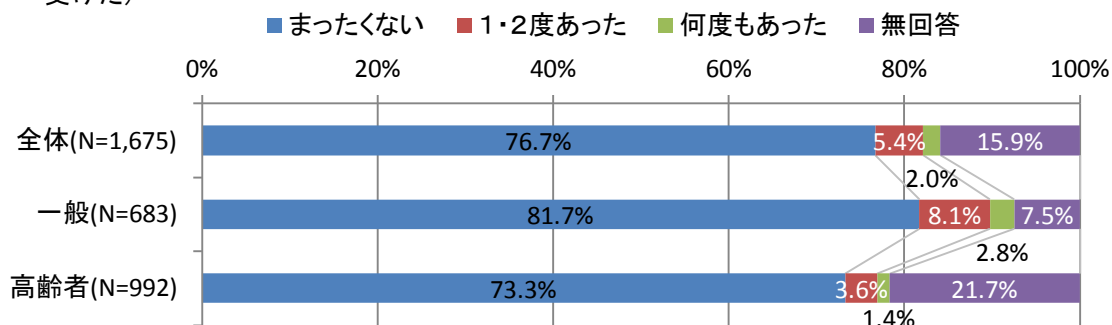
配偶者や交際相手からの「精神的な嫌がらせ等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で7.4%、一般が10.9%、高齢者が5.0%となっている。

配偶者や交際相手からの「性的な行為を強要された等」のDVについては、「1・2度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で5.2%、一般が7.5%、高齢者が3.6%となっている。

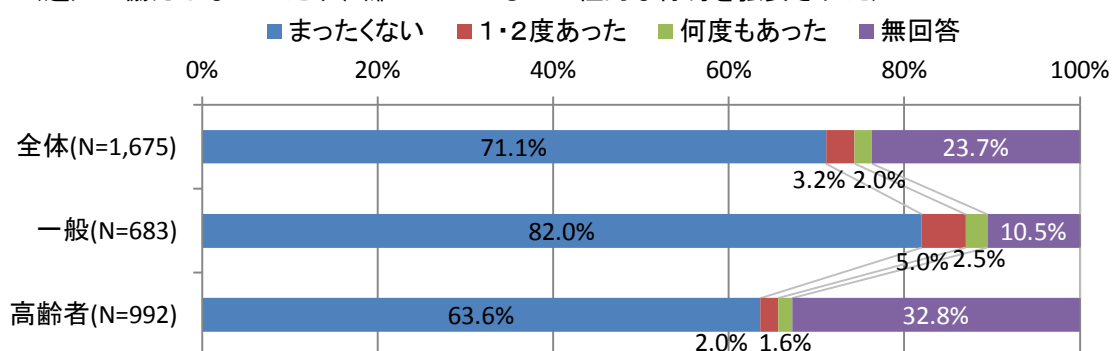
（なぐられたり、けられたり、物を投げつけられたり、突き飛ばされたりするなどの身体に対する暴行を受けた）



（人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視されるなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、あなたもしくはあなたの家族が危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた）



（避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要された）



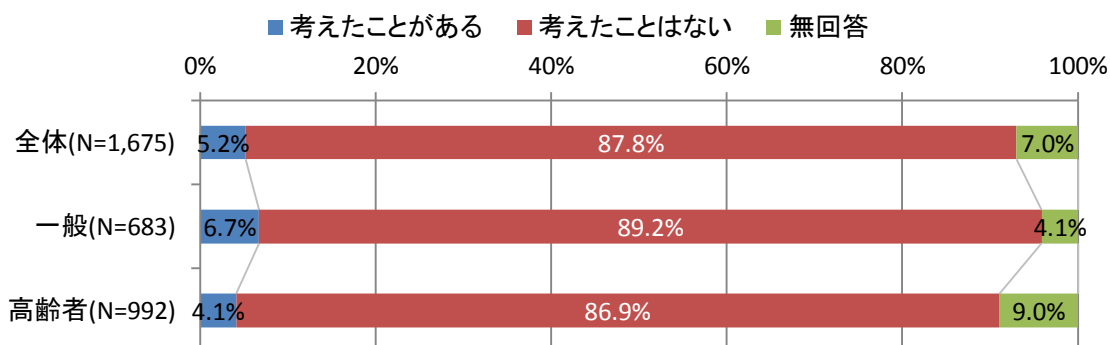
4 自殺について（一般・高齢者）

自殺したいと考えたことがあるかについては、「考えたことがある」が、全体で5.2%、一般が6.7%、高齢者が4.1%となっている。

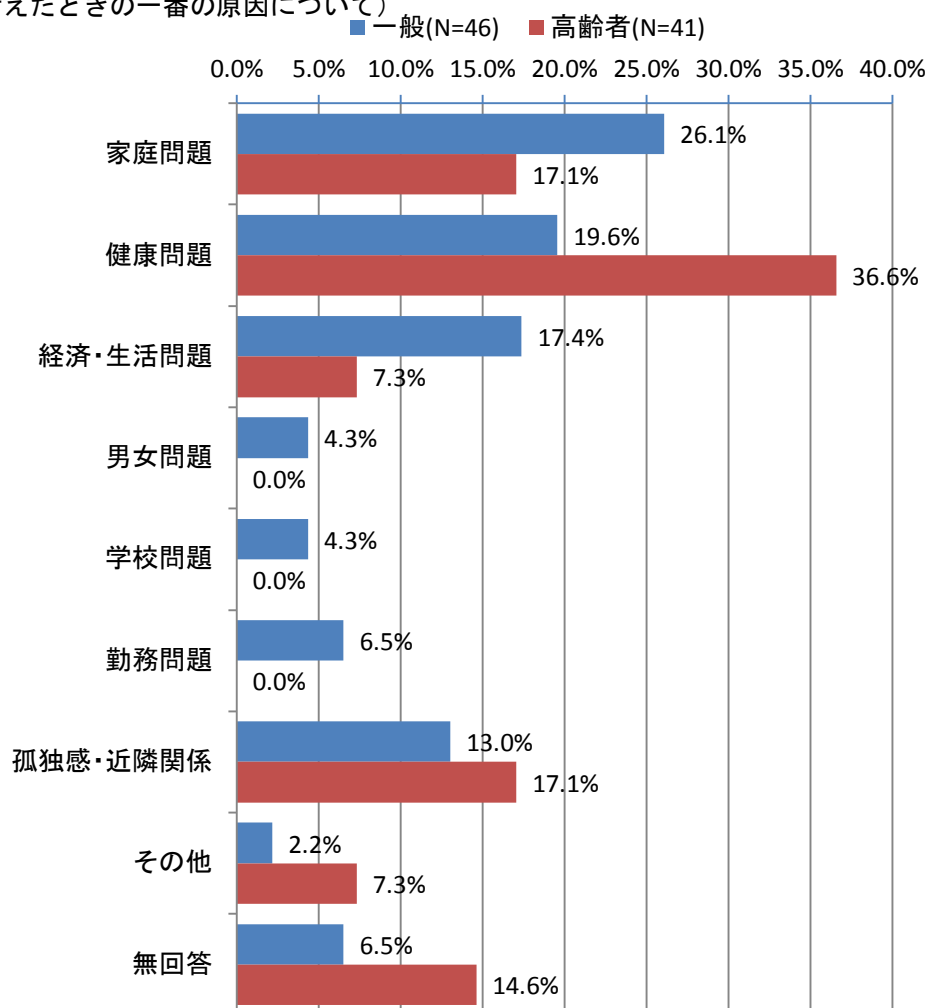
なお、自殺を考えたときの一番の原因として、一般が「家庭問題」、高齢者が「健康問題」を最も上位に挙げている。

また、自殺したいと考えたときの相談先については、半数以上がともに「相談していない」としている。

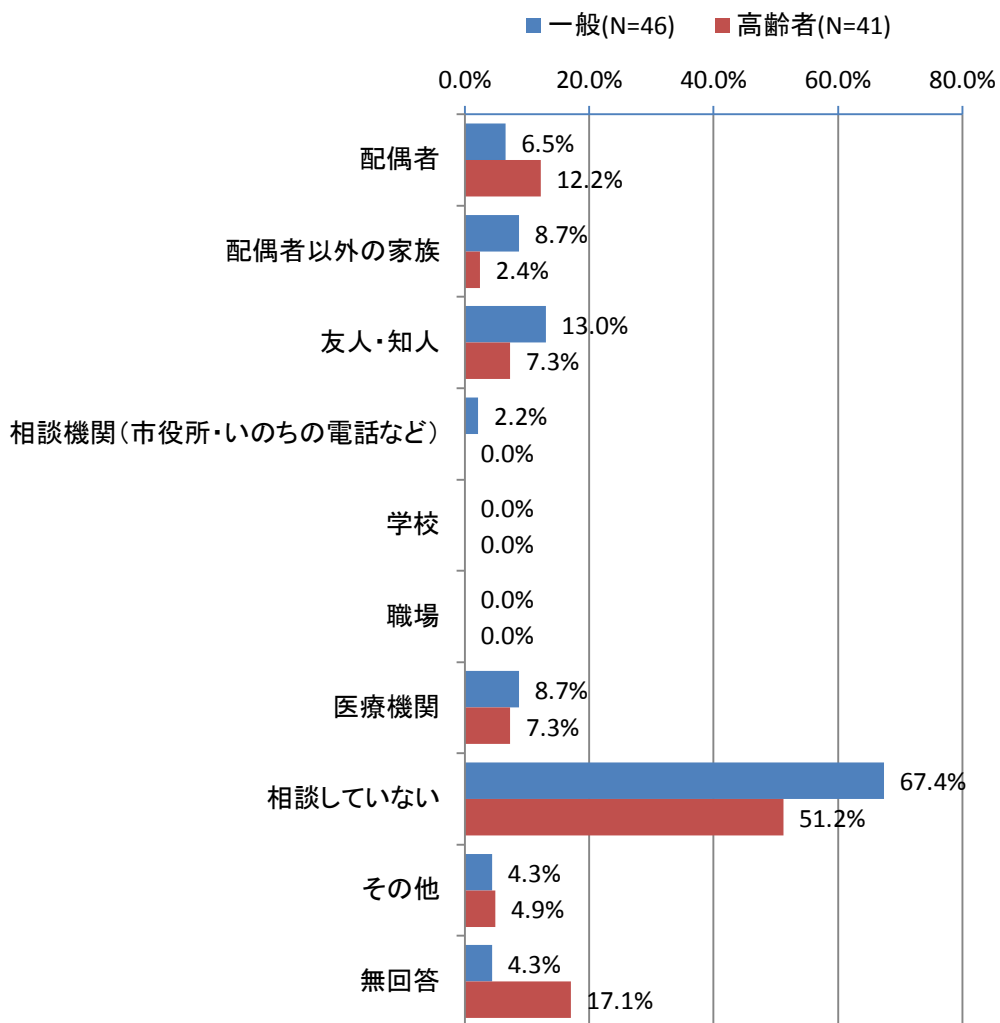
（この1年間における自殺への考えについて）



（自殺を考えたときの一番の原因について）



（自殺を考えたときの相談先について）



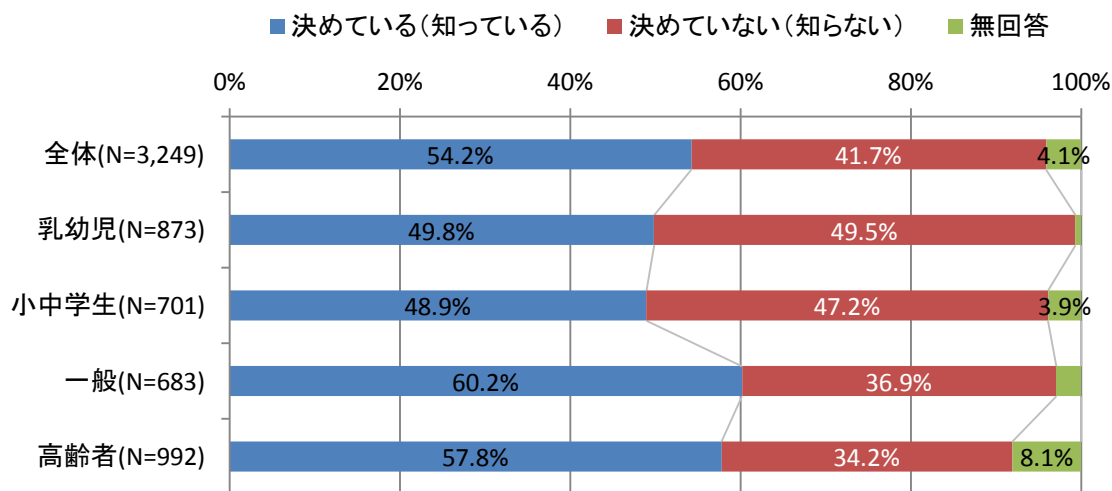
5 防災について

【防災対策について】（乳幼児・小中学生・一般・高齢者）

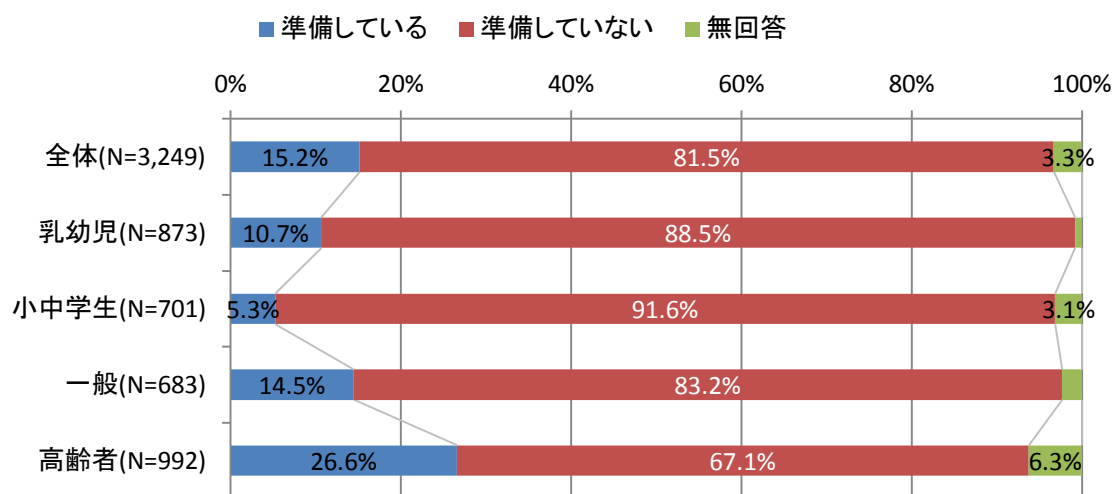
自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で54.2%、乳幼児が49.8%、小中学生が48.9%、一般が60.2%、高齢者が57.8%となっている。

災害時の非常持ち出し品の準備については、「準備している」が、全体で15.2%、乳幼児が10.7%、小中学生が5.3%、一般が14.5%、高齢者が26.6%となっている。

（避難する場所について）



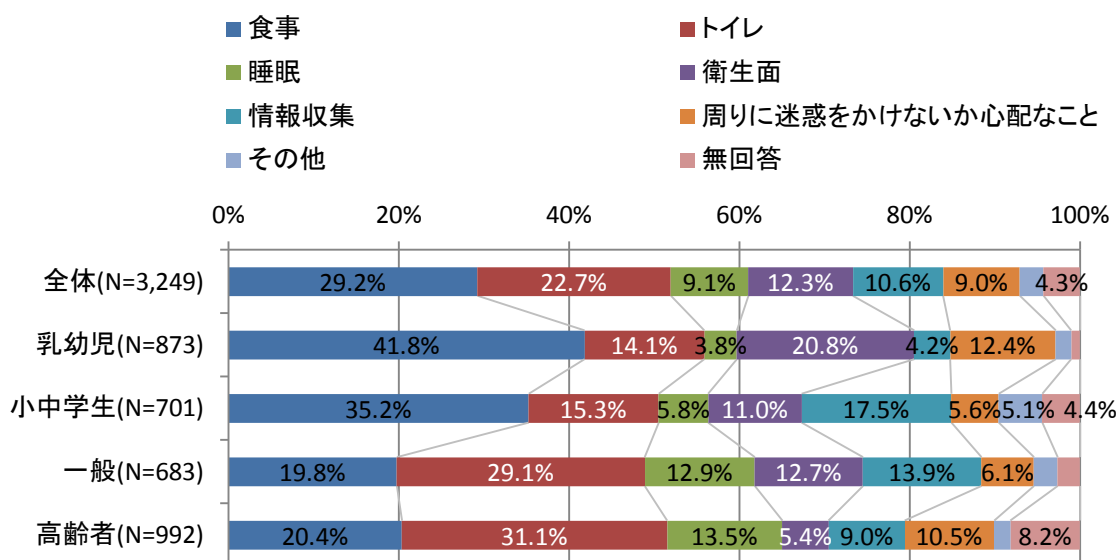
（災害時の非常持ち出し品の準備について）



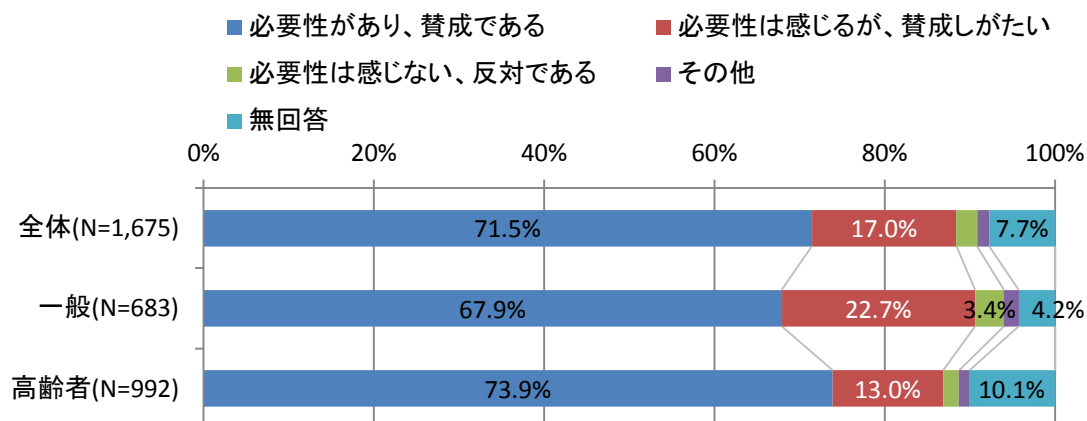
避難所に避難した場合に一番不安なことについて、全体では「食事」（29.2%）、「トイレ」（22.7%）が上位で、各区分では一般・高齢者が「トイレ」「食事」、乳幼児・小中学生が「食事」の次に「衛生面」「情報収集」となっている。

町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で71.5%、一般が67.9%、高齢者が73.9%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なことについて）



（町内会において事前に家族情報を把握する必要性について）



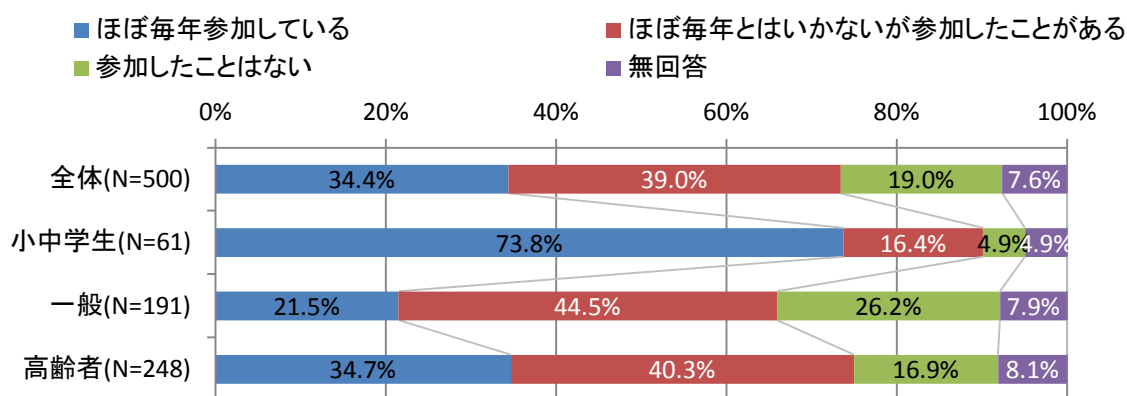
【桜島にお住まいの方の防災対策について】（小中学生・一般・高齢者）

桜島火山爆発総合防災訓練の参加については、「ほぼ毎年参加している」が、全体で34.4%、小中学生が73.8%、一般が21.5%、高齢者が34.7%となっている。

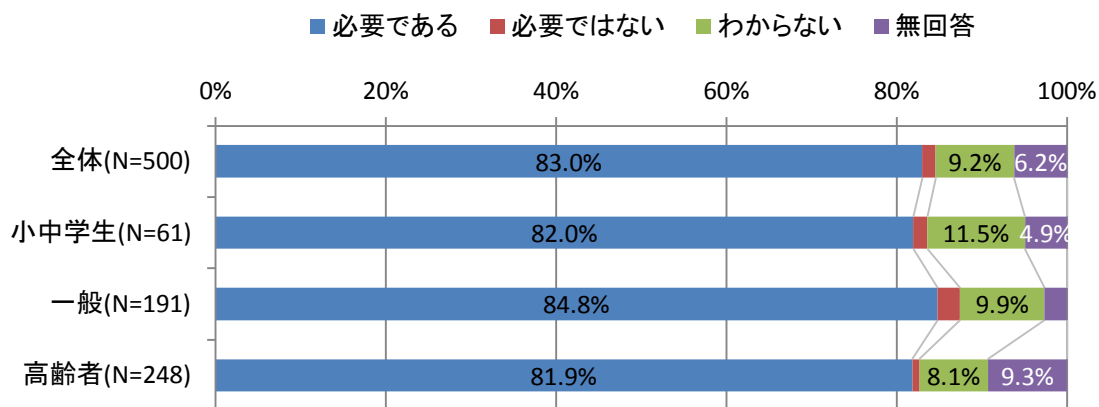
避難しなかった人を確認する仕組みの必要性については、「必要である」が、全体で83.0%、小中学生が82.0%、一般が84.8%、高齢者が81.9%となっている。

「避難準備」発令時の車などでの島外避難については、「避難準備の段階で車で避難する」が、全体で40.5%、一般が48.7%、高齢者が34.3%となっている。

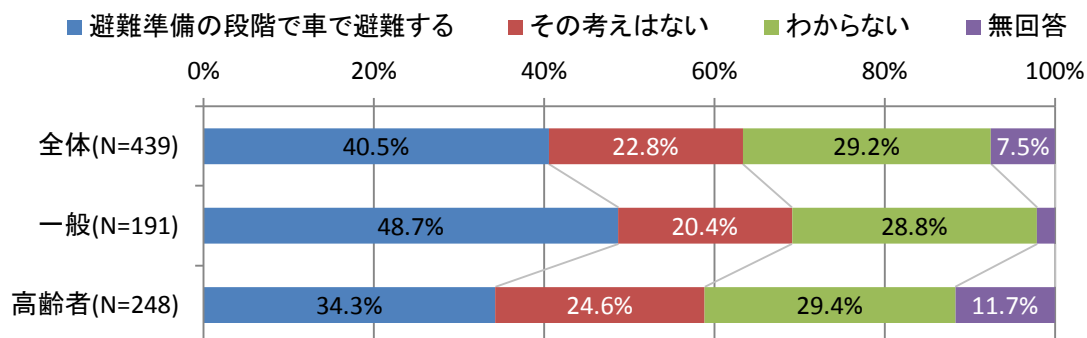
（桜島火山爆発総合防災訓練の参加について）



（避難しなかった人を確認する仕組みの必要性について）



（「避難準備」発令時の車などでの島外避難について）



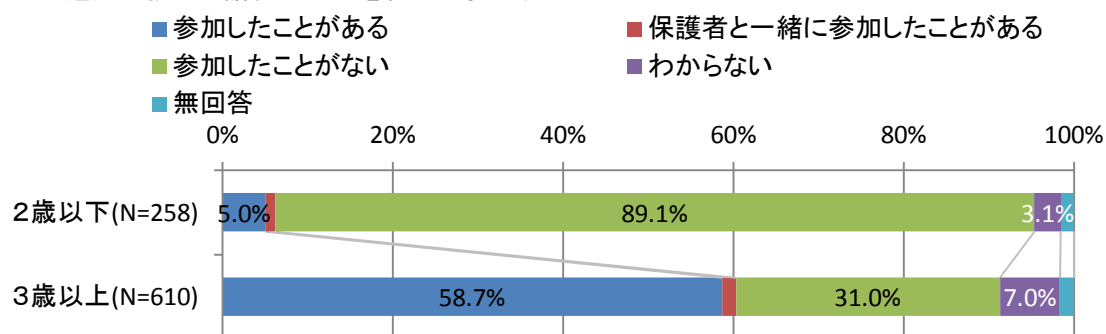
【乳幼児】

1 交通安全について（P10～P12、P17～P18 参照）

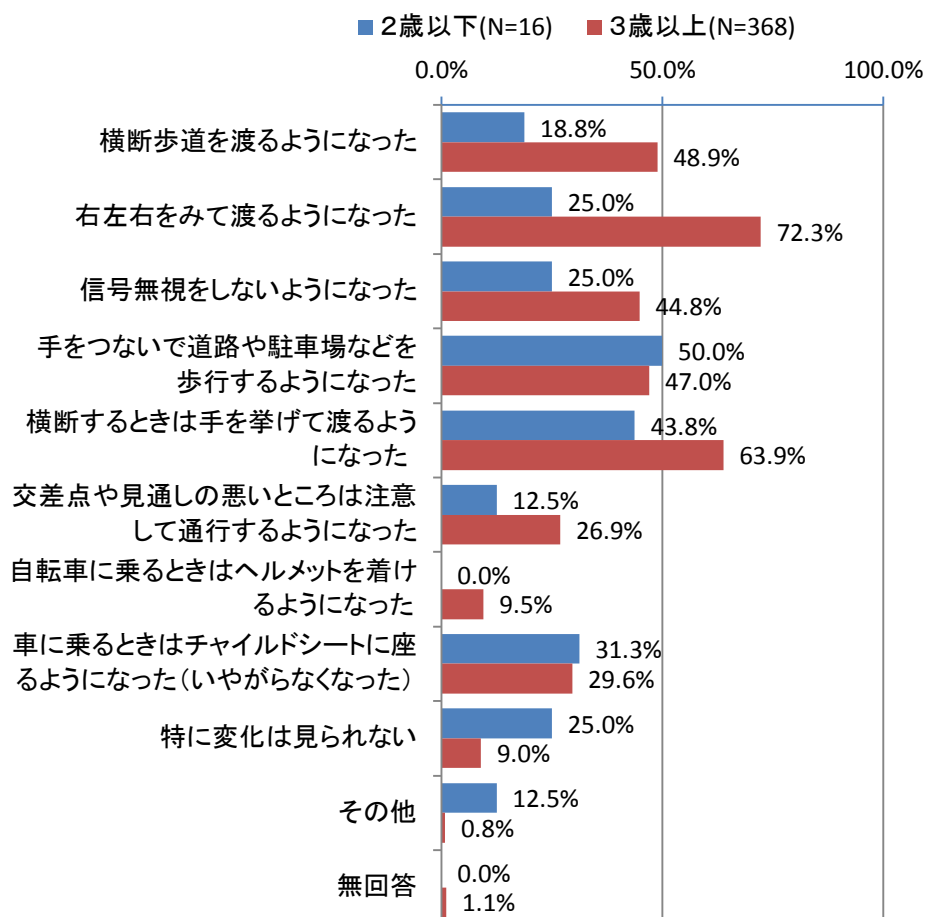
（1）交通安全教室（講習会などを含む）について

- 交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」が、全体で 42.7%、性別では男が 41.2%、女が 44.4%、年齢別では 2 歳以下が 5.0%、3 歳以上が 58.7%となっている。
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、子どもに見られた行動の変化については、「右左右をみて渡るようになった」が、全体で 70.5%、性別では男が 70.0%、女が 70.8%、年齢別では 2 歳以下が 25.0%、3 歳以上が 72.3%となっている。なお、「特に変化は見られない」は 9.6%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）



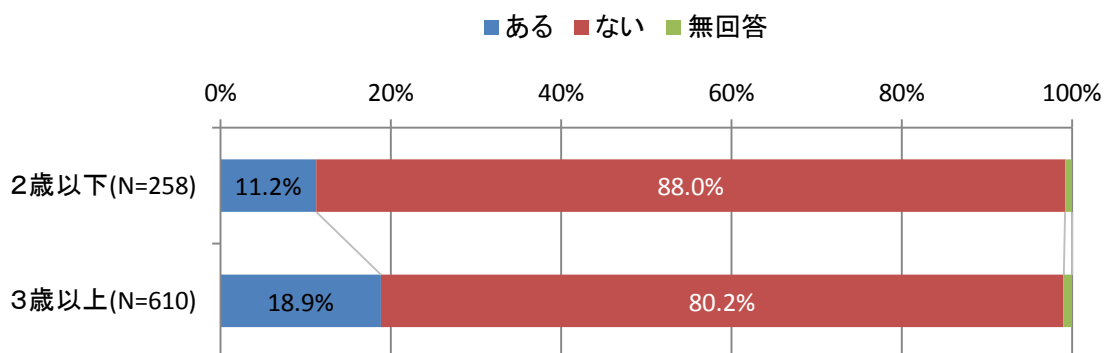
（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、子どもに見られた行動の変化について）



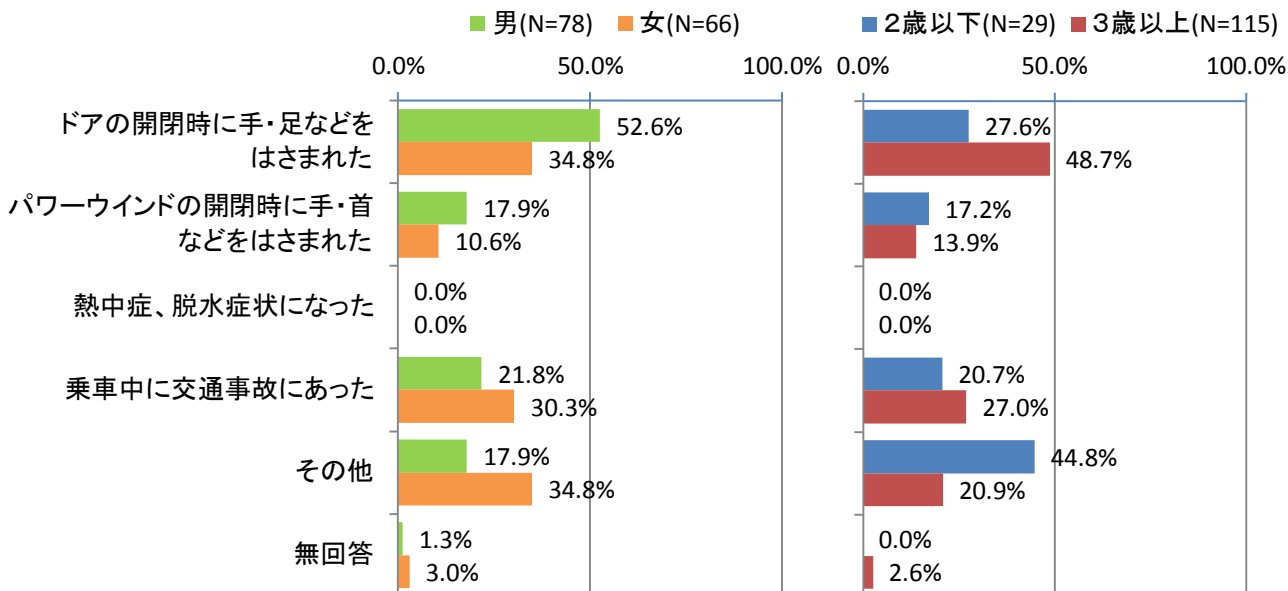
（２）自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについて

- ・自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについては、「ある」が、全体で 16.5%、性別では男が 17.4%、女が 15.7%、年齢別では 2 歳以下が 11.2%、3 歳以上が 18.9%となっている。
- ・自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が、全体で 44.4%、性別では男が 52.6%、女が 34.8%、年齢別では 2 歳以下が 27.6%、3 歳以上が 48.7%となっている。

（自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあったことについて）



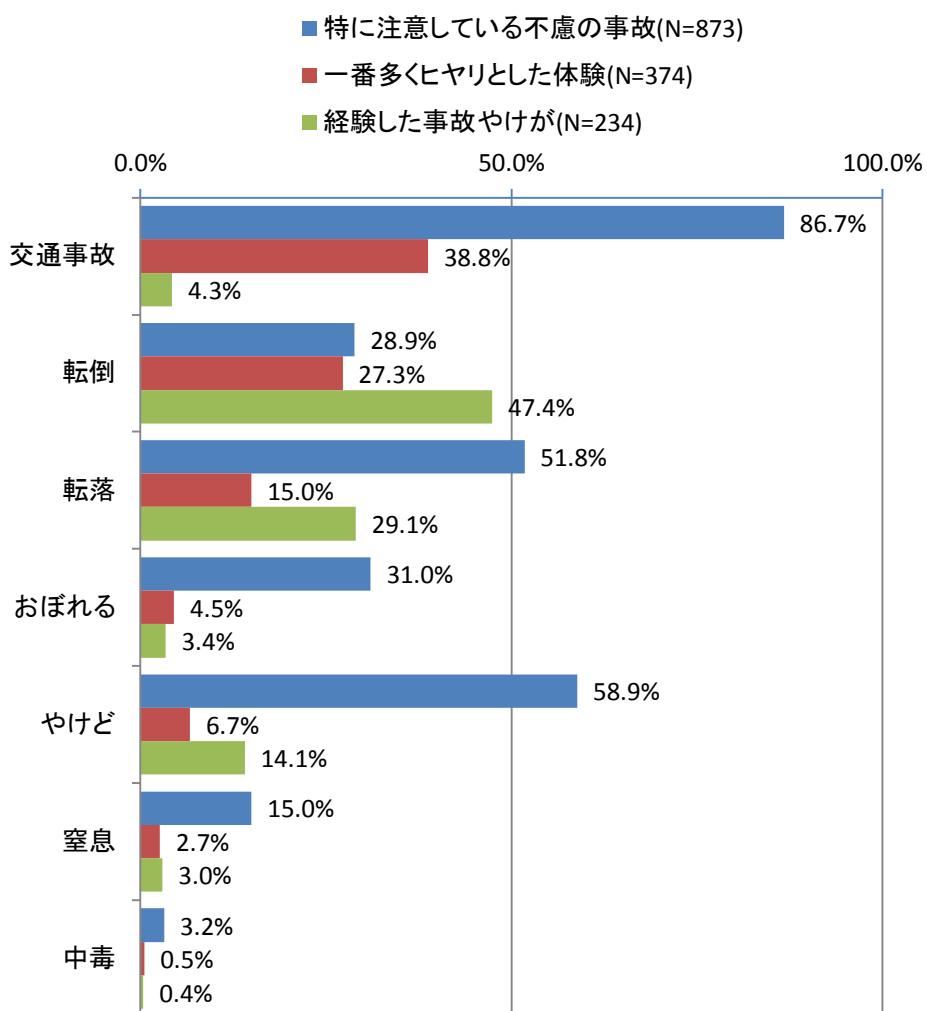
（自動車内で子どもが経験した危険な状況について）



2 不慮の事故について（P19～P31 参照）

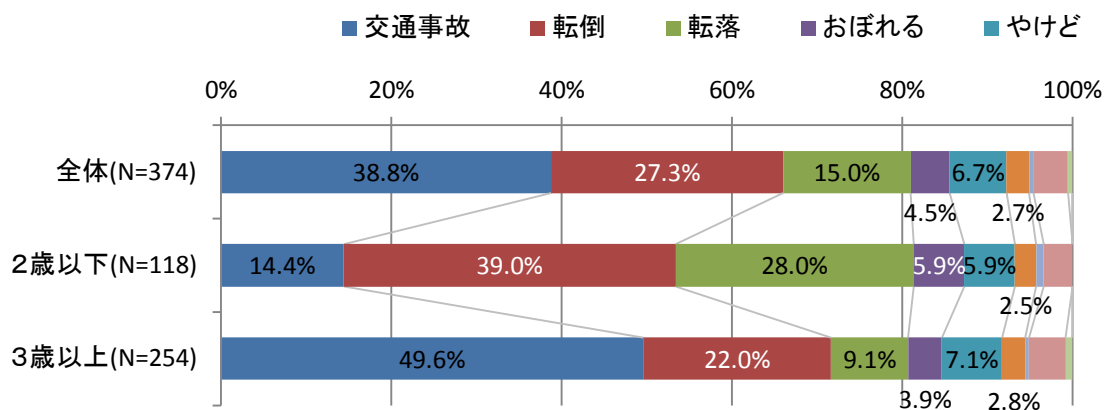
（1）「特に注意している不慮の事故」・「一番多くヒヤリとした体験」・「経験した事故やけが」について

- ・「特に注意している不慮の事故（3つまで○）」については、「交通事故」が86.7%、「やけど」が58.9%、「転落」が51.8%となっている。
- ・「一番多くヒヤリとした体験（ひとつに○）」については、「交通事故」が38.8%、「転倒」が27.3%、「転落」が15.0%となっている。
- ・「経験した事故やけがの種類（1件目と2件目の合計）」については、「転倒」が47.4%、「転落」が29.1%、「やけど」が14.1%となっている。



（２） 1年間に一番多くヒヤリとした体験について

- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「交通事故」が、全体で 38.8%、性別では男が 39.5%、女が 37.9%、年齢別では 2歳以下が 14.4%、3歳以上が 49.6%となっている。
- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「転倒」が、全体で 27.3%、性別では男が 26.2%、女が 28.2%、年齢別では 2歳以下が 39.0%、3歳以上が 22.0%となっている。
- ・ 1年間に一番多くヒヤリとした体験については、「転落」が、全体で 15.0%、性別では男が 16.9%、女が 13.0%、年齢別では 2歳以下が 28.0%、3歳以上が 9.1%となっている。



（３）子どもの安全対策について（P35～P36 参照）

子どもの年齢等により、安全対策の内容は違うと考えられるが、割合ごとに分けると以下ようになる。

| | 項目 | 人数 | 割合 |
|------------|-------------------------------------|-----|-------|
| 80%以上 | 箸や歯ブラシなどをくわえたまま歩き回らないように注意している | 791 | 90.6% |
| | ライター、刃物など危ないものは、子どもの手の届かないところに置いている | 761 | 87.2% |
| | 熱いお茶などの入ったコップなどをテーブルの端に置かないようにしている | 746 | 85.5% |
| 50%以上80%未満 | 浴槽の水は残さないようにしている | 479 | 54.9% |
| | ベランダから身をのりださないように台座などは置かないようにしている | 449 | 51.4% |
| | かかりつけの医療機関や緊急時の連絡先が分かるようにしている | 448 | 51.3% |
| 50%未満 | たばこを放置しない | 409 | 46.8% |
| | トイレの中に落ちないようにする子ども用の便座やふたをしている | 279 | 32.0% |
| | よく体をぶつけてしまいそうな家具などの角にカバーをしている | 258 | 29.6% |
| | たんす、食器棚、冷蔵庫の扉が開かないように安全グッズを設置している | 232 | 26.6% |
| | 階段に転落防止柵を設置している(昇らないような防止柵も含む) | 166 | 19.0% |
| | ドアやとびらに手を挟まないように安全グッズを設置している | 104 | 11.9% |
| | 窓や扉から飛び出さないように安全グッズを設置している | 100 | 11.5% |
| | ベッドに転落防止柵を設置している | 75 | 8.6% |
| | 浴槽ですべて濡れないようにすべり止めを設置している | 62 | 7.1% |
| | その他 | 28 | 3.2% |

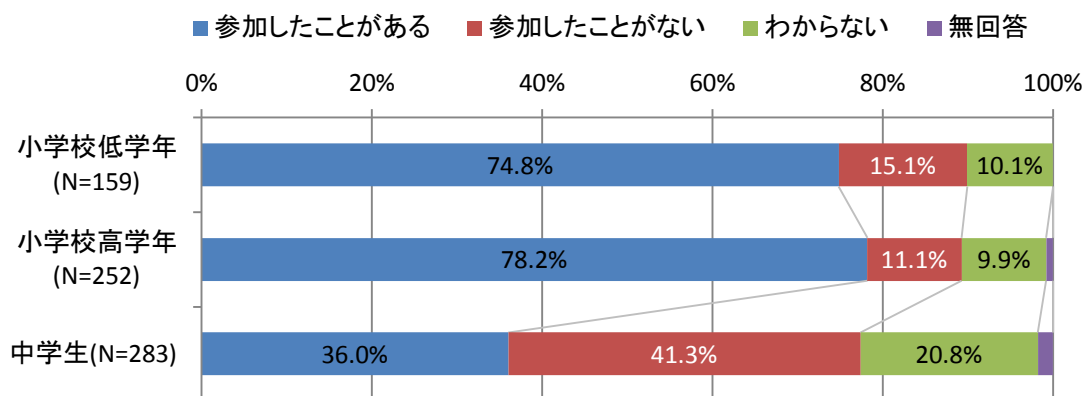
【小中学生】

1 交通安全について（P56～P60、P62～P69、P71～P72 参照）

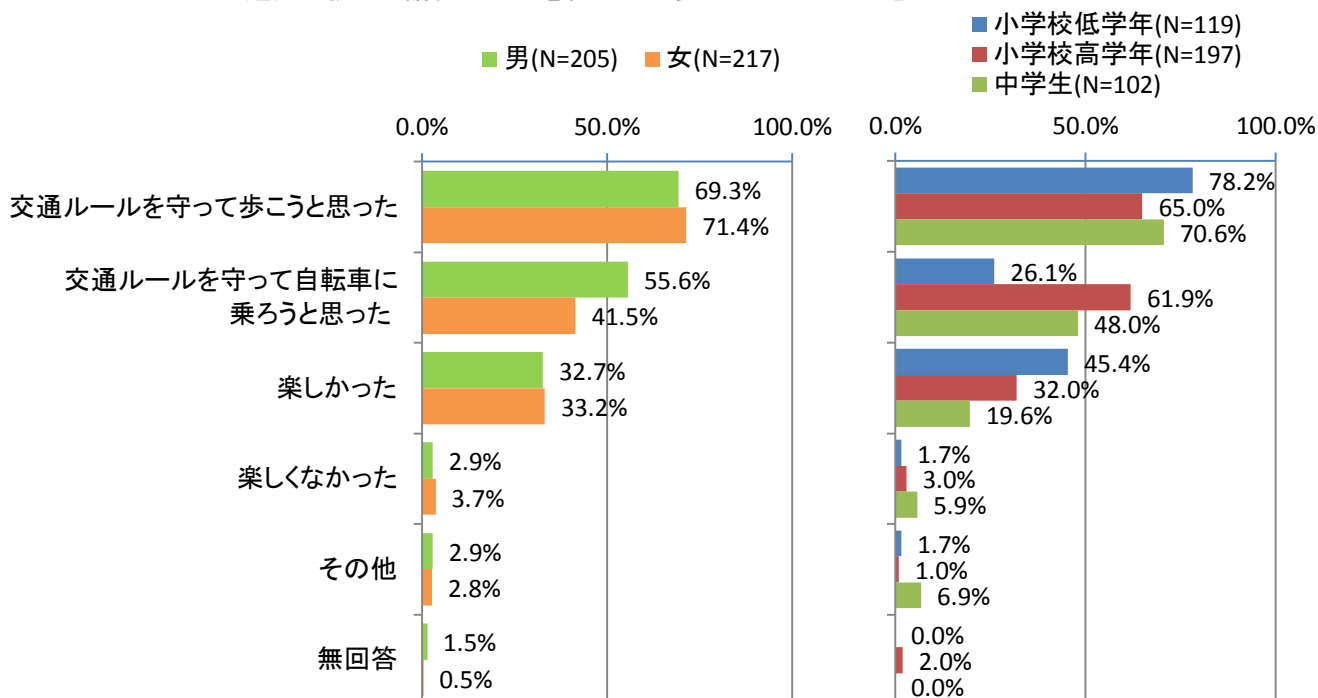
（1）交通安全教室（講習会などを含む）について

- 交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがある」が、全体で 60.2%、性別では男が 58.7%、女が 61.8%、年齢別では小学校低学年が 74.8%、小学校高学年が 78.2%、中学生が 36.0%となっている。
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した子どもの感想については、「交通ルールを守って歩こうと思った」が、全体で 70.4%、性別では男が 69.3%、女が 71.4%、年齢別では小学校低学年が 78.2%、小学校高学年が 65.0%、中学生が 70.6%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）

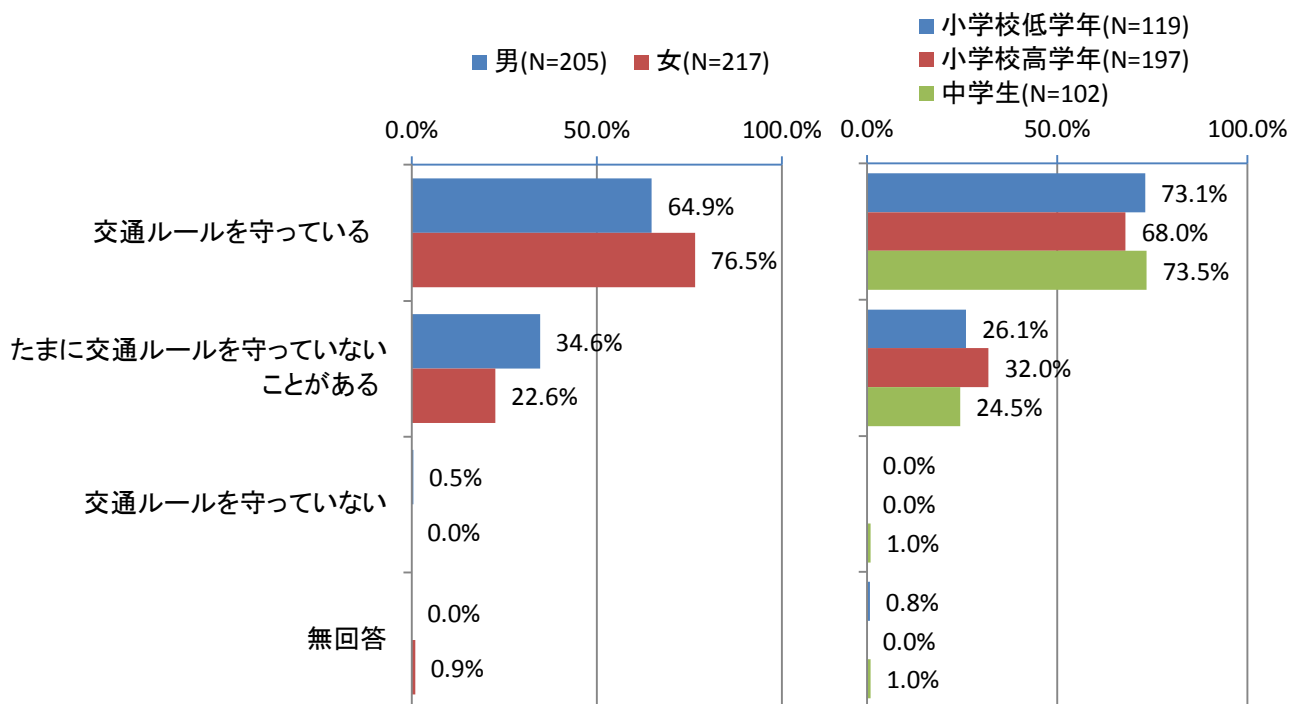


（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した子どもの感想について）



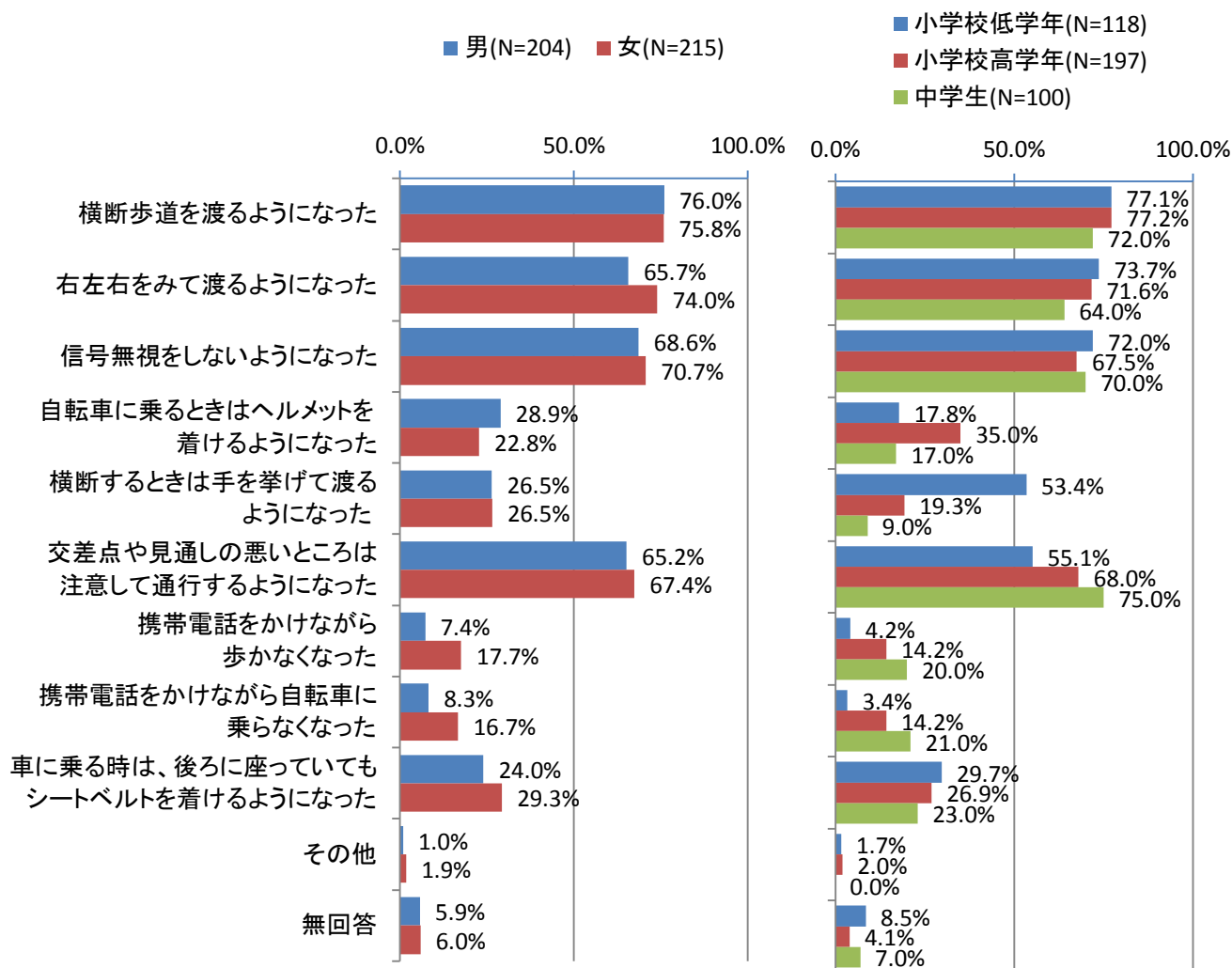
- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守については、「交通ルールを守っている」が、全体で70.9%、性別では男が64.9%、女が76.5%、年齢別では小学校低学年が73.1%、小学校高学年が68.0%、中学生が73.5%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後の交通ルールの遵守について）



- 交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守るようになった交通ルールについては、「横断歩道を渡るようになった」が、全体で 75.9%、性別では男が 76.0%、女が 75.8%、年齢別では小学校低学年が 77.1%、小学校高学年が 77.2%、中学生が 72.0%となっている。

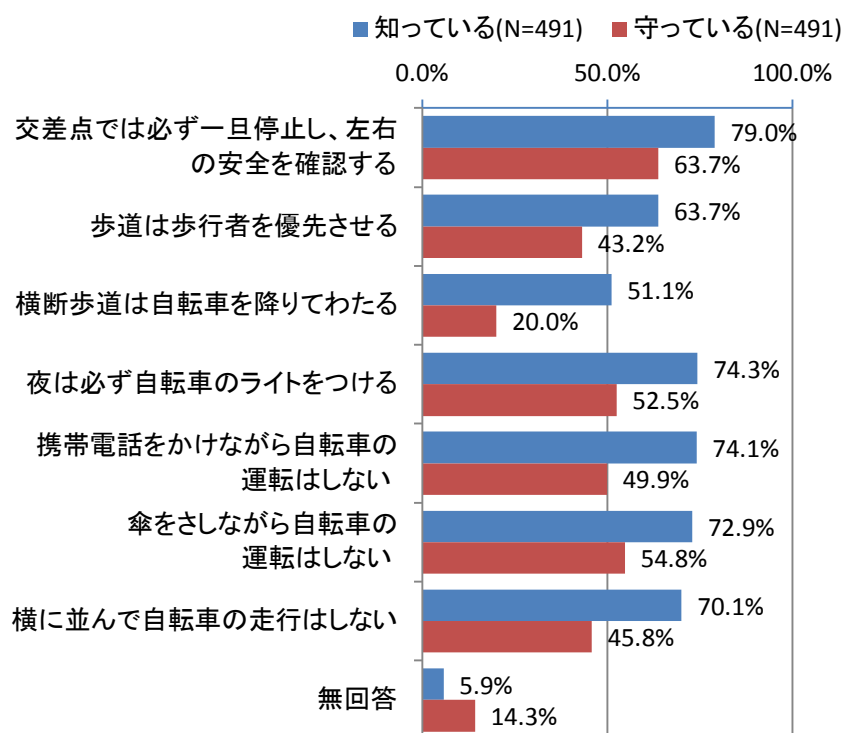
（交通安全教室（講習会などを含む）に参加した後、守るようになった交通ルールについて）



（２）自転車について

- ・自転車の使用頻度については、「ほぼ毎日（週４日以上）」、「週に２～３日」、「週に１日」の合計が、全体で 33.1%、性別では男が 41.5%、女が 24.8%、年齢別では小学校低学年が 23.2%、小学校高学年が 39.8%、中学生が 33.2%となっている。
- ・自転車乗車中のヘルメットの着用状況については、「つけていない」が、全体で 57.0%、性別では男が 55.8%、女が 58.4%、年齢別では小学校低学年が 49.0%、小学校高学年が 41.3%、中学生が 75.2%となっている。
- ・自転車乗車中にヘルメットをつけていない理由については、「ヘルメットを持っていない」が、全体で 61.4%、性別では男が 60.4%、女が 62.5%、年齢別では小学校低学年が 61.7%、小学校高学年が 55.3%、中学生が 65.2%となっている。
- ・自転車に関するルールを知っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が、全体で 79.0%、性別では男が 81.8%、女が 76.0%、年齢別では小学校低学年が 68.8%、小学校高学年が 83.2%、中学生が 79.6%となっている。
- ・自転車に関するルールを守っているかについては、「交差点では必ず一旦停止し、左右の安全を確認する」が、全体で 63.7%、性別では男が 65.1%、女が 62.2%、年齢別では小学校低学年が 47.9%、小学校高学年が 70.7%、中学生が 65.0%となっている。

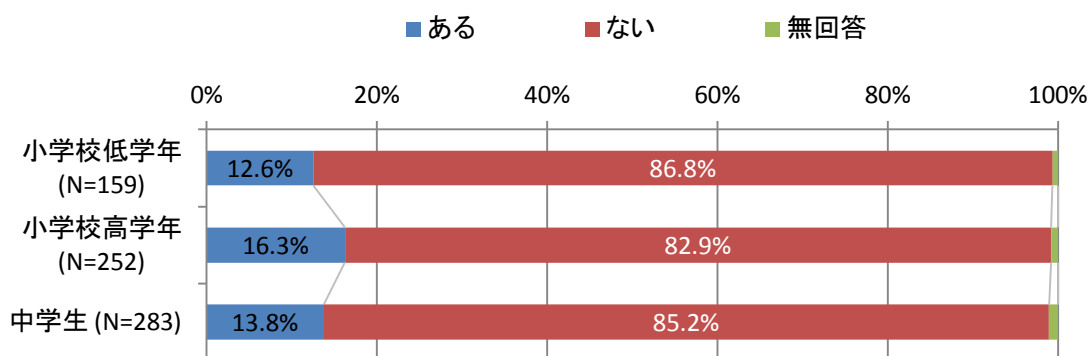
（自転車に関するルールの認知度と遵守度について）



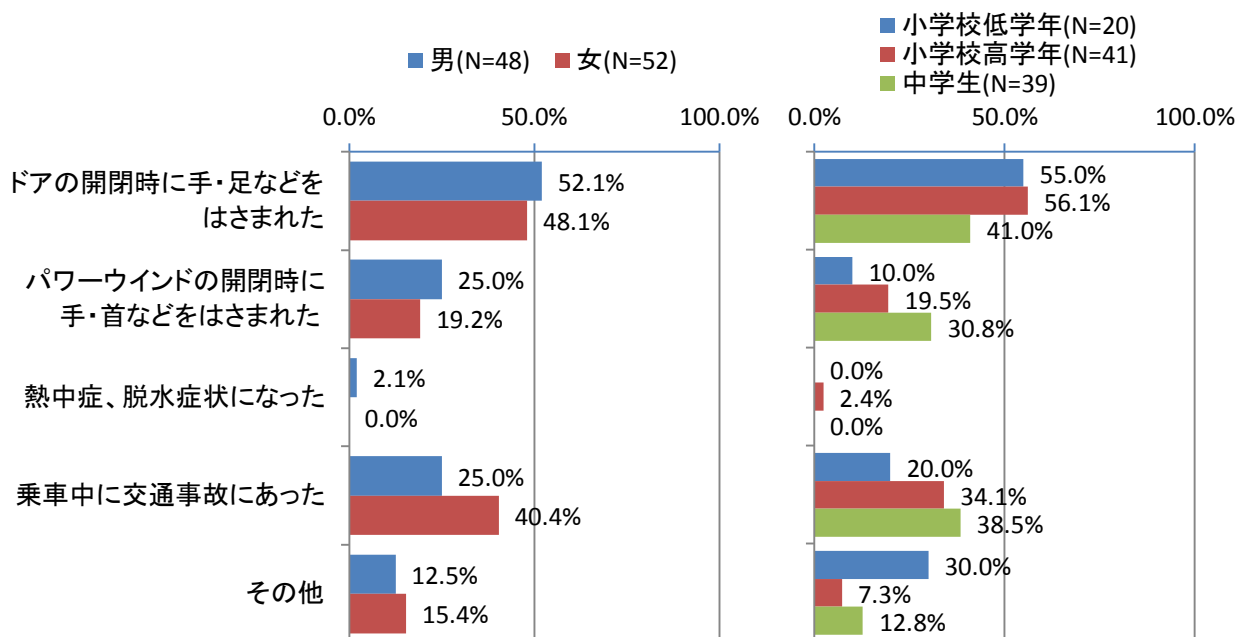
（3）自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについて

- ・自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについては、「ある」が、全体で 14.3%、性別では男が 13.8%、女が 14.8%、年齢別では小学校低学年が 12.6%、小学校高学年が 16.3%、中学生が 13.8%となっている。
- ・自動車内で子どもが経験した危険な状況については、「ドアの開閉時に手・足などをはさまれた」が、全体で 50.0%、性別では男が 52.1%、女が 48.1%、年齢別では小学校低学年が 55.0%、小学校高学年が 56.1%、中学生が 41.0%となっている。

（自動車内で子どもがけがをしたまたは危険な目にあっただことについて）



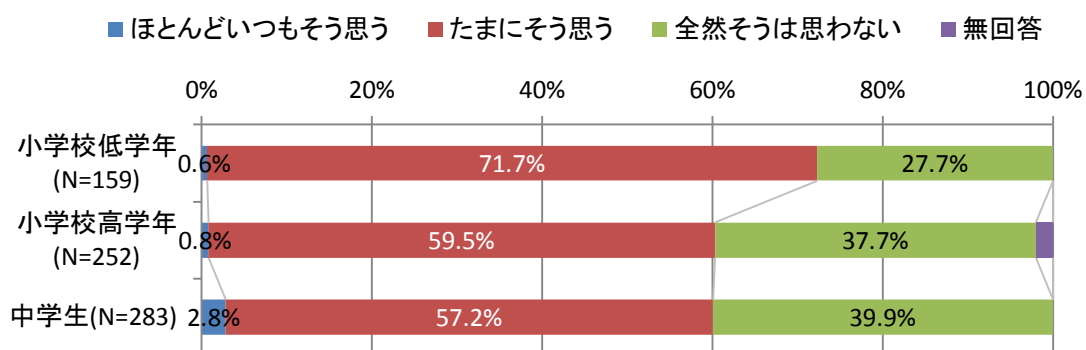
（自動車内で子どもが経験した危険な状況について）



2 子育てへの支援について（P74 参照）

- ・保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で63.2%、性別では男が64.5%、女が62.1%、年齢別では小学校低学年が72.3%、小学校高学年が60.3%、中学生が60.0%となっている。

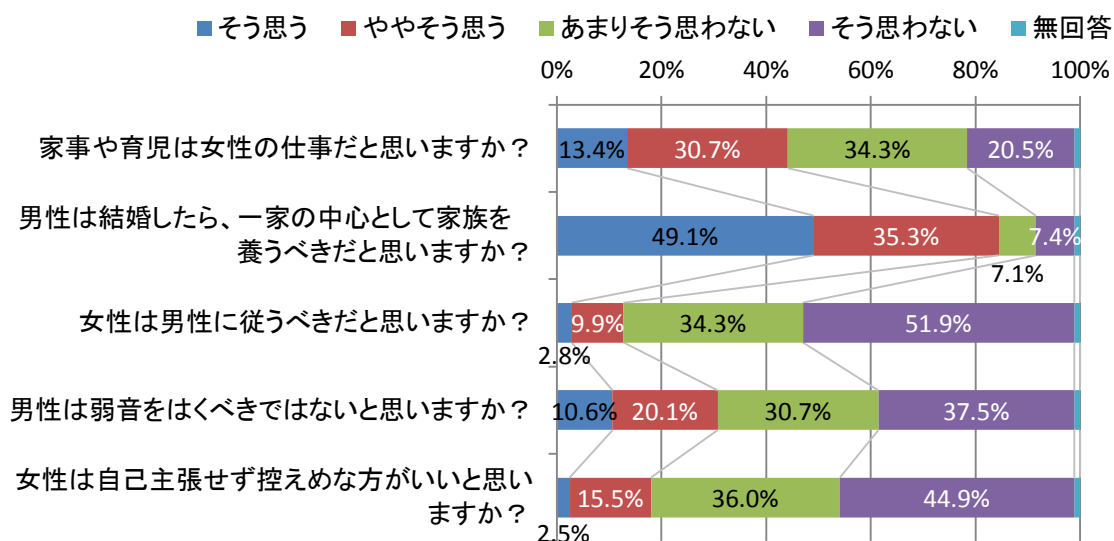
（保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて）



3 暴力（DV）について（P79～P96 参照）

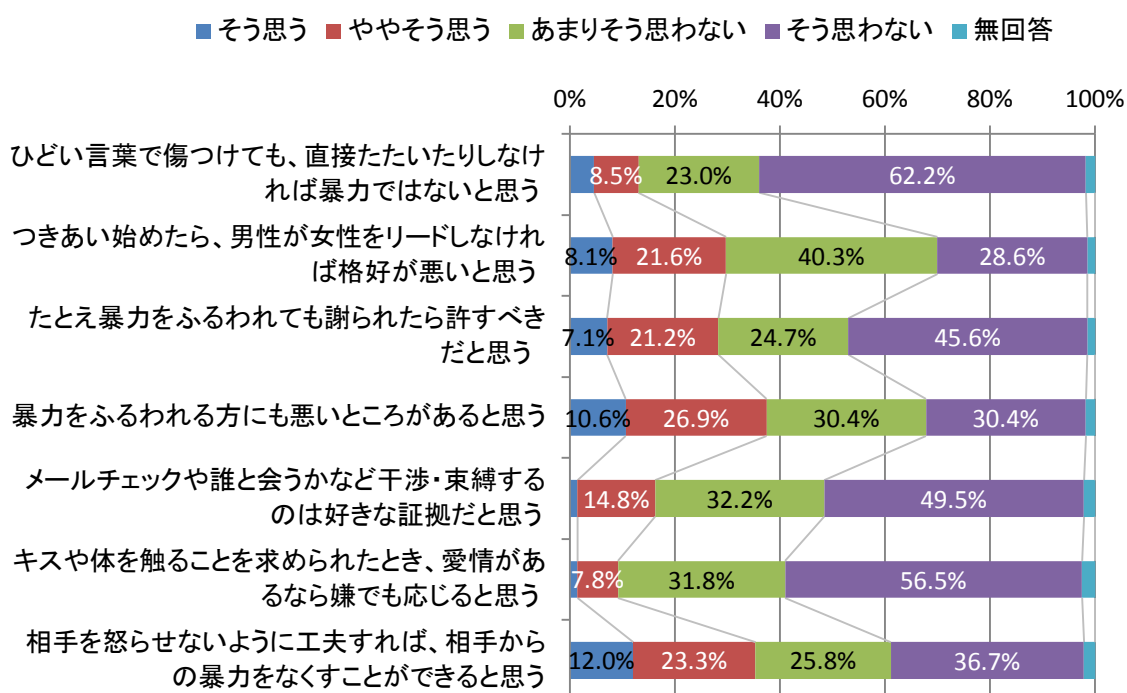
（1）男女の役割について

- ・家事や育児は女性の仕事だと思ふかについては、「そう思う」が、全体で13.4%、性別では男が13.8%、女が13.2%となっている。
- ・男性は結婚したら、一家の中心として家族を養うべきだと思ふかについては、「そう思う」が、全体で49.1%、性別では男が55.1%、女が43.1%となっている。
- ・女性は男性に従うべきだと思ふかについては、「そう思う」が、全体で2.8%、性別では男が2.2%、女が3.5%となっている。
- ・男性は弱音をかくべきではないと思ふかについては、「そう思う」が、全体で10.6%、性別では男が12.3%、女が9.0%となっている。
- ・女性は自己主張せず控えめな方がいいと思ふかについては、「そう思う」が、全体で2.5%、性別では男が2.2%、女が2.8%となっている。



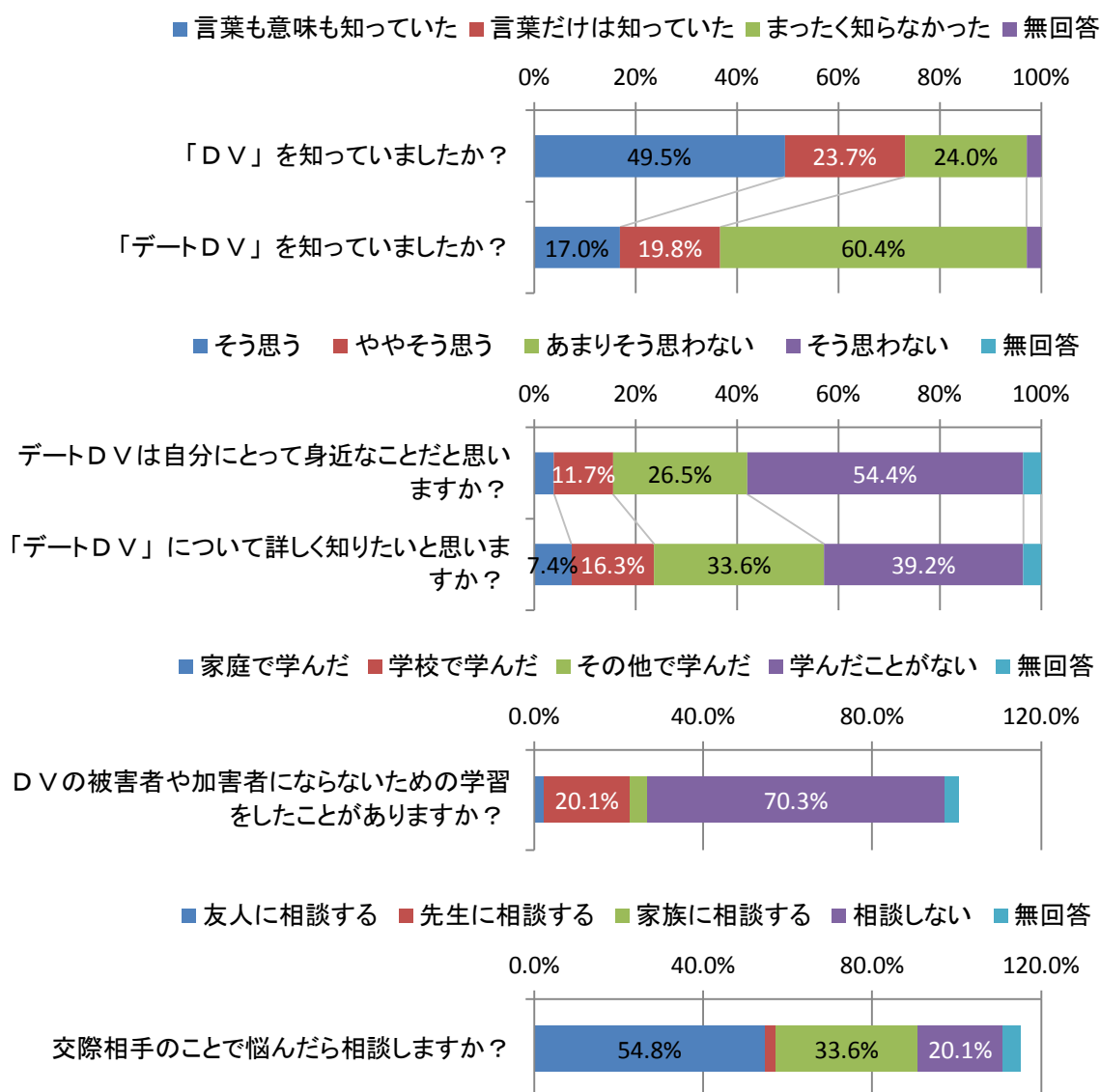
（２）あなた（中学生本人）が交際した（異性と付き合う）場合にどう思うことかについて

- ・ひどい言葉で傷つけても、直接たたいたりしなければ暴力ではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 4.6%、性別では男が 5.8%、女が 3.5%となっている。
- ・つきあい始めたら、男性が女性をリードしなければ格好が悪いと思うかについては、「そう思う」が、全体で 8.1%、性別では男が 11.6%、女が 4.9%となっている。
- ・たとえ暴力をふるわれても謝られたら許すべきだと思うかについては、「そう思う」が、全体で 7.1%、性別では男が 11.6%、女が 2.8%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも悪いところがあると思うかについては、「そう思う」が、全体で 10.6%、性別では男が 15.9%、女が 5.6%となっている。
- ・メールチェックや誰と会うかなど干渉・束縛するのは好きな証拠だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 1.4%、性別では男が 2.2%、女が 0.7%となっている。
- ・キスや体を触ることを求められたとき、愛情があるなら嫌でも応じると思うかについては、「そう思う」が、全体で 1.4%、性別では男が 2.9%、女が 0.0%となっている。
- ・相手を怒らせないように工夫すれば、相手からの暴力をなくすことができると思うかについては、「そう思う」が、全体で 12.0%、性別では男が 17.4%、女が 6.9%となっている。



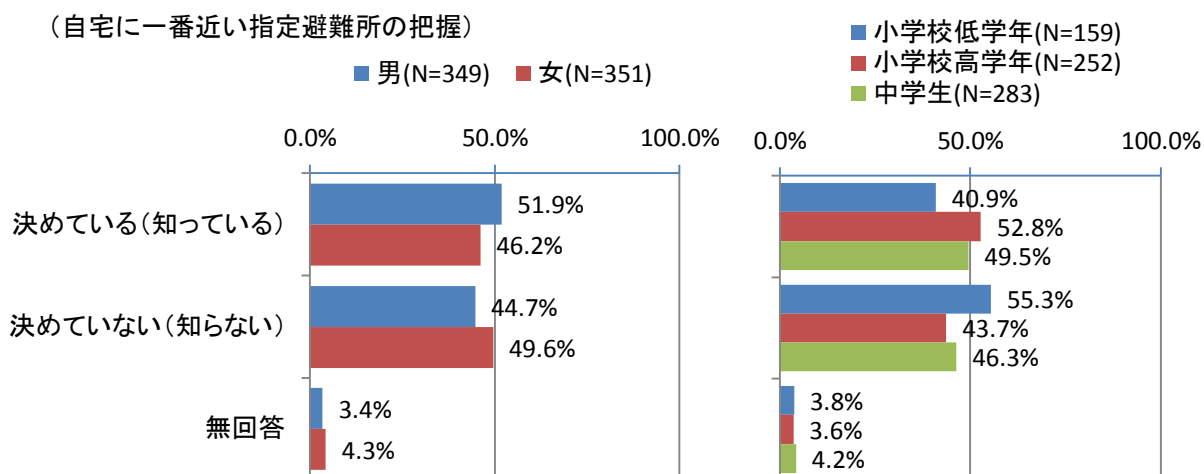
（3）DV（ドメスティック・バイオレンス）について

- ・「DV」の認知度については、「まったく知らなかった」が、全体で24.0%、性別では男が29.0%、女が19.4%となっている。
- ・「デートDV」の認知度については、「まったく知らなかった」が、全体で60.4%、性別では男が63.0%、女が58.3%となっている。
- ・「デートDV」は身近な問題であるかについては、「そう思わない」が、全体で54.4%、性別では男が53.6%、女が55.6%となっている。
- ・「デートDV」について詳しく知りたいかについては、「そう思わない」が、全体で39.2%、性別では男が39.9%、女が38.9%となっている。
- ・DVの被害者や加害者にならないための学習をしたことがあるかについては、「学んだことはない」が、全体で70.3%、性別では男が70.3%、女が70.1%となっている。
- ・交際相手のことで悩んだときの相談先については、「相談しない」が、全体で20.1%、性別では男が29.0%、女が11.8%となっている。

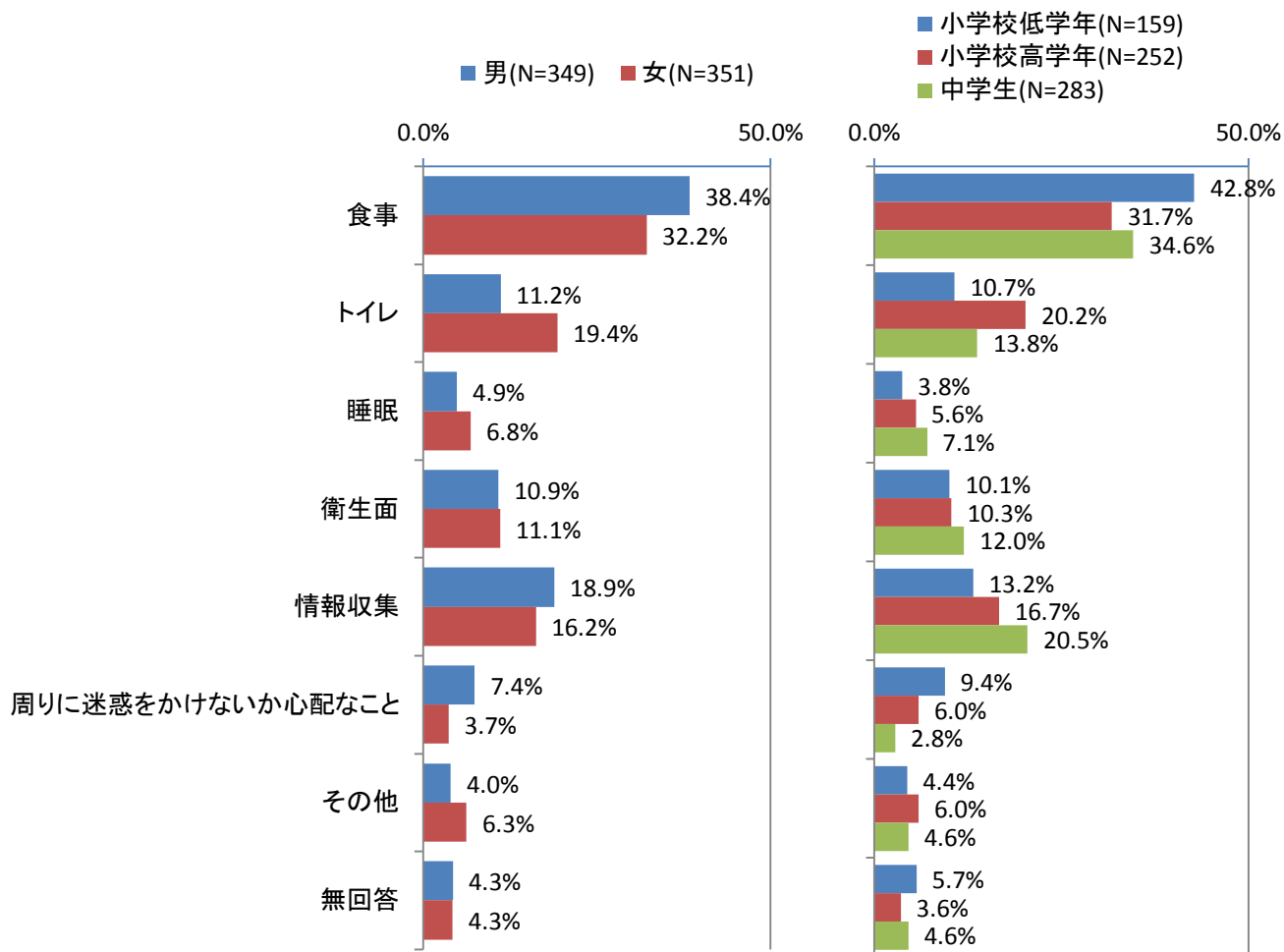


4 防災について（P97、P100～P102 参照）

- ・ 自宅に一番近い指定避難所の把握について、「決めている（知っている）」が、全体で 48.9%、性別では男が 51.9%、女が 46.2%、年齢別では小学校低学年が 40.9%、小学校高学年が 52.8%、中学生が 49.5%となっている。
- ・ 避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「食事」が、全体で 35.2%、性別では男が 38.4%、女が 32.2%、年齢別では小学校低学年が 42.8%、小学校高学年が 31.7%、中学生が 34.6%となっている。
- ・ 大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度について、「知っている」が、全体で 35.4%、性別では男が 37.5%、女が 33.3%、年齢別では小学校低学年が 22.0%、小学校高学年が 39.7%、中学生が 39.2%となっている。



（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



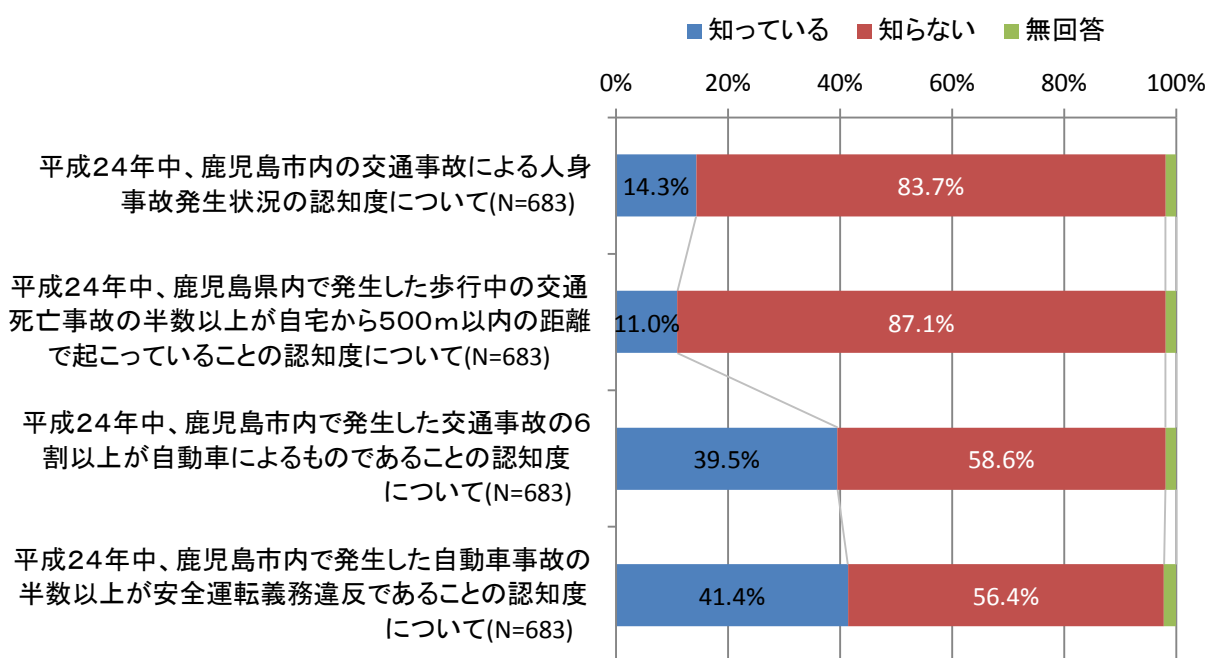
【一般】

1 交通安全について（P112～P115、P122～P126 参照）

（1）交通事故等に関する認知度について

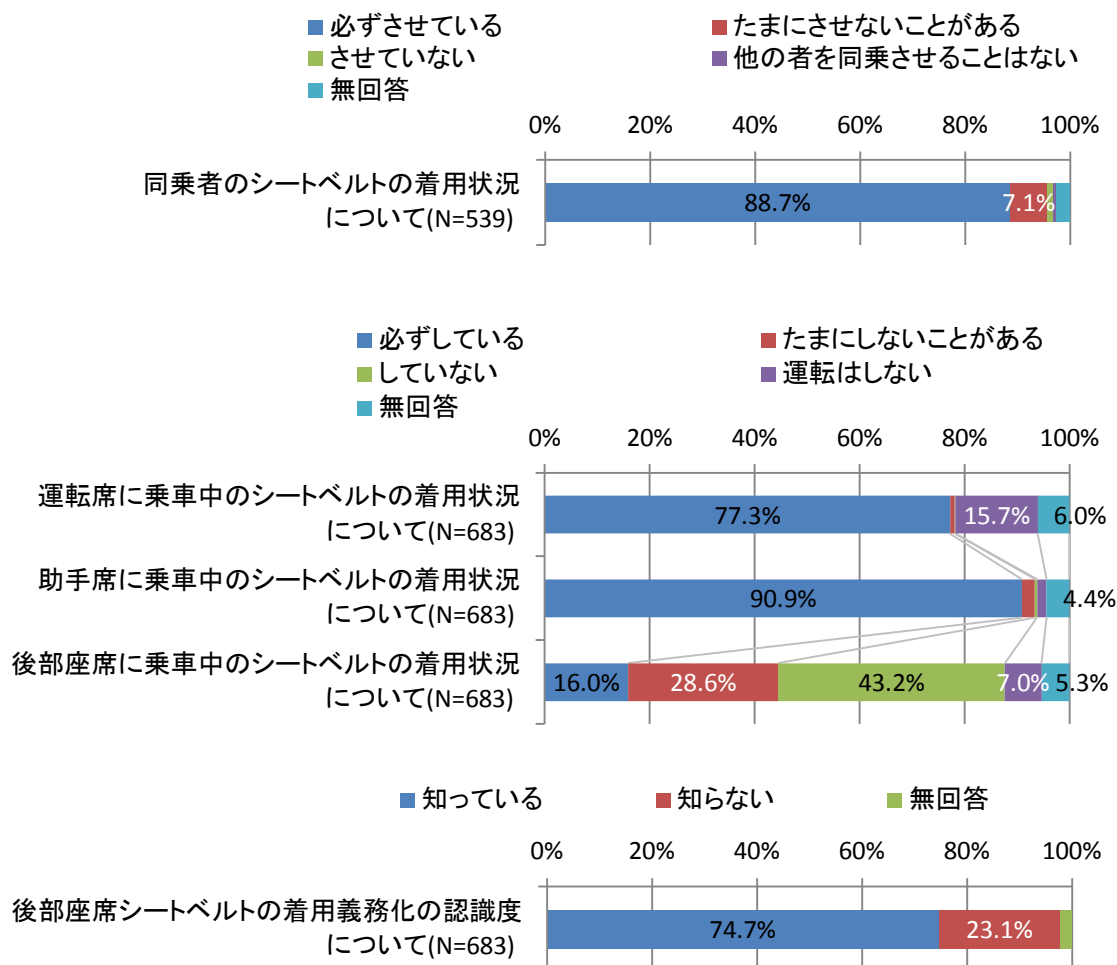
- ・平成24年中、鹿児島市内の交通事故による人身事故発生状況の認知度については、「知っている」が、全体で14.3%、性別では男が17.3%、女が12.3%、年齢別では40歳未満が8.5%、40歳～64歳が15.7%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通死亡事故の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が、全体で11.0%、性別では男が11.3%、女が10.8%、年齢別では40歳未満が9.2%、40歳～64歳が11.0%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島市内で発生した交通事故の6割以上が自動車によるものであることの認知度については、「知っている」が、全体で39.5%、性別では男が43.0%、女が37.1%、年齢別では40歳未満が24.1%、40歳～64歳が43.8%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島市内で発生した自動車事故の半数以上が安全運転義務違反であることの認知度については、「知っている」が、全体で41.4%、性別では男が41.2%、女が41.6%、年齢別では40歳未満が31.9%、40歳～64歳が44.0%となっている。

（交通事故等に関する認知度について）



（２）シートベルトの着用状況等について

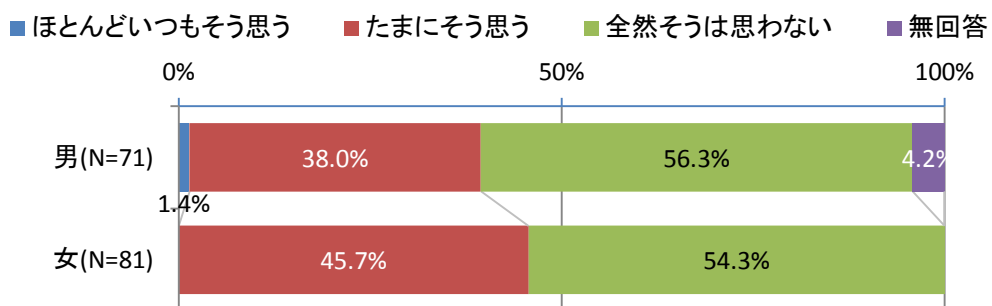
- ・同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が、全体で88.7%、性別では男が89.3%、女が88.1%、年齢別では40歳未満が88.0%、40歳～64歳が88.7%となっている。
- ・運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で77.3%、性別では男が84.2%、女が72.4%、年齢別では40歳未満が69.5%、40歳～64歳が79.3%となっている。
- ・助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で90.9%、性別では男が90.8%、女が91.0%、年齢別では40歳未満が90.1%、40歳～64歳が91.1%となっている。
- ・後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「していない」が、全体で43.2%、性別では男が41.9%、女が44.1%、年齢別では40歳未満が52.5%、40歳～64歳が40.4%となっている。
- ・後部座席シートベルトの着用義務化の認識度については、「知っている」が、全体で74.7%、性別では男が79.9%、女が70.9%、年齢別では40歳未満が74.5%、40歳～64歳が75.0%となっている。



2 子育てへの支援について（P129 参照）

- ・子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについては、「ほとんどいつもそう思う」と「たまにそう思う」の合計が、全体で42.8%、性別では男が39.4%、女が45.7%、年齢別では40歳未満が42.2%、40歳～64歳が42.3%となっている。

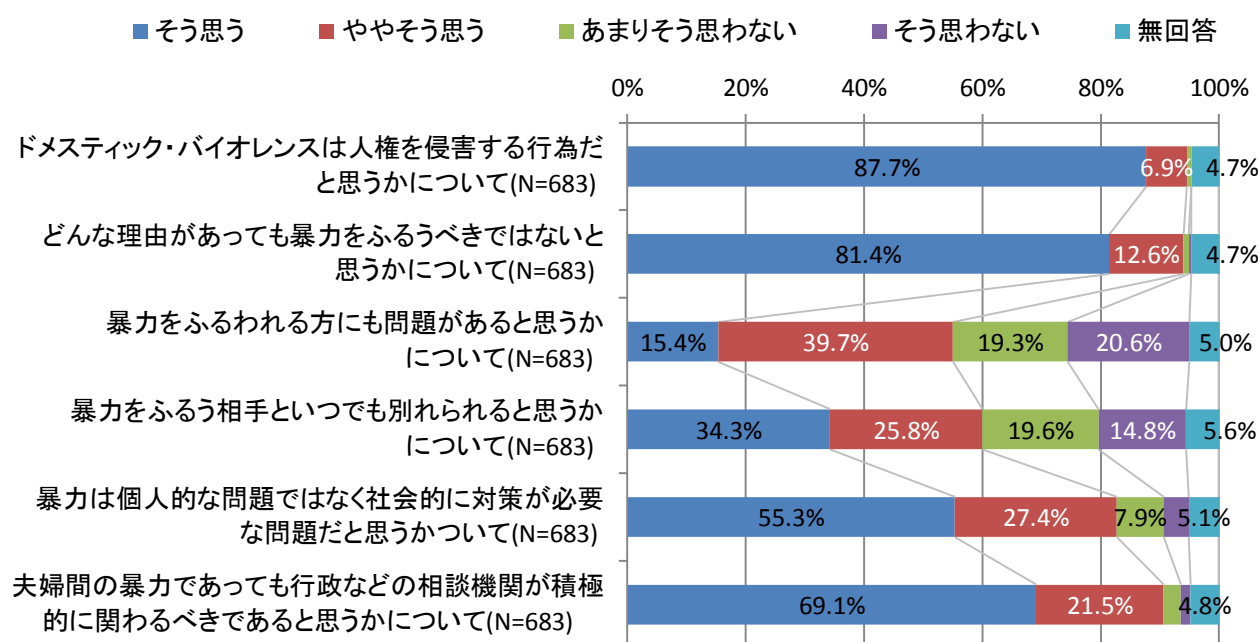
（保護者が子どもに手をあげたくなったり、世話したくないと思うときがあるかについて）



3 暴力（DV）について（P134～P149 参照）

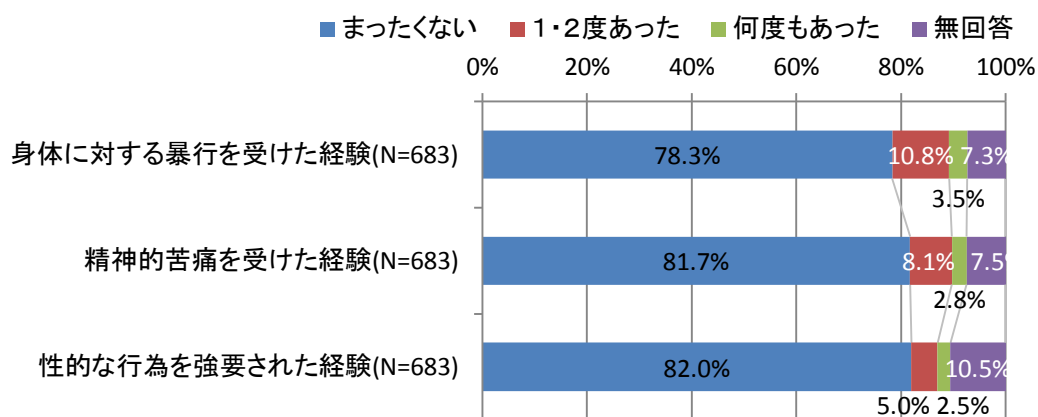
（1）暴力について

- ・ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 87.7%、性別では男が 84.2%、女が 90.2%、年齢別では 40 歳未満が 83.7%、40 歳～64 歳が 88.6%となっている。
- ・どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 81.4%、性別では男が 79.2%、女が 83.0%、年齢別では 40 歳未満が 78.7%、40 歳～64 歳が 82.0%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「そう思う」が、全体で 15.4%、性別では男が 17.3%、女が 14.0%、年齢別では 40 歳未満が 12.8%、40 歳～64 歳が 16.1%となっている。
- ・暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が、全体で 34.3%、性別では男が 35.2%、女が 33.6%、年齢別では 40 歳未満が 23.4%、40 歳～64 歳が 36.8%となっている。
- ・暴力は個人的な問題ではなく社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 55.3%、性別では男が 52.5%、女が 57.4%、年齢別では 40 歳未満が 59.6%、40 歳～64 歳が 54.1%となっている。
- ・夫婦間の暴力であっても行政などの相談機関が積極的に関わるべきであると思うかについては、「そう思う」が、全体で 69.1%、性別では男が 62.7%、女が 73.7%、年齢別では 40 歳未満が 80.1%、40 歳～64 歳が 66.0%となっている。



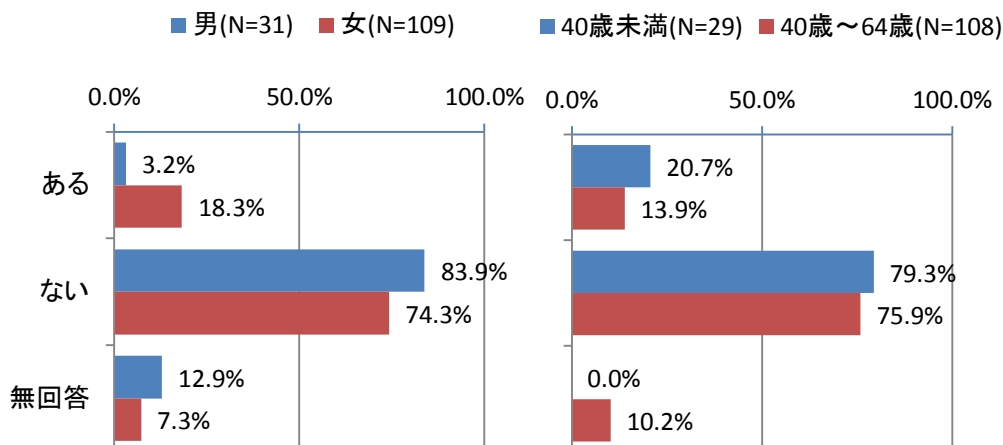
（２）暴力を受けた経験について

- ・身体に対する暴行を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で14.3%、性別では男が9.2%、女が18.0%、年齢別では40歳未満が12.0%、40歳～64歳が14.8%となっている。
- ・精神的苦痛を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で10.9%、性別では男が3.6%、女が16.0%、年齢別では40歳未満が13.5%、40歳～64歳が10.3%となっている。
- ・性的な行為を強要された経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で7.5%、性別では男が1.4%、女が11.8%、年齢別では40歳未満が4.2%、40歳～64歳が8.4%となっている。



（３）受けた暴力による命の危険

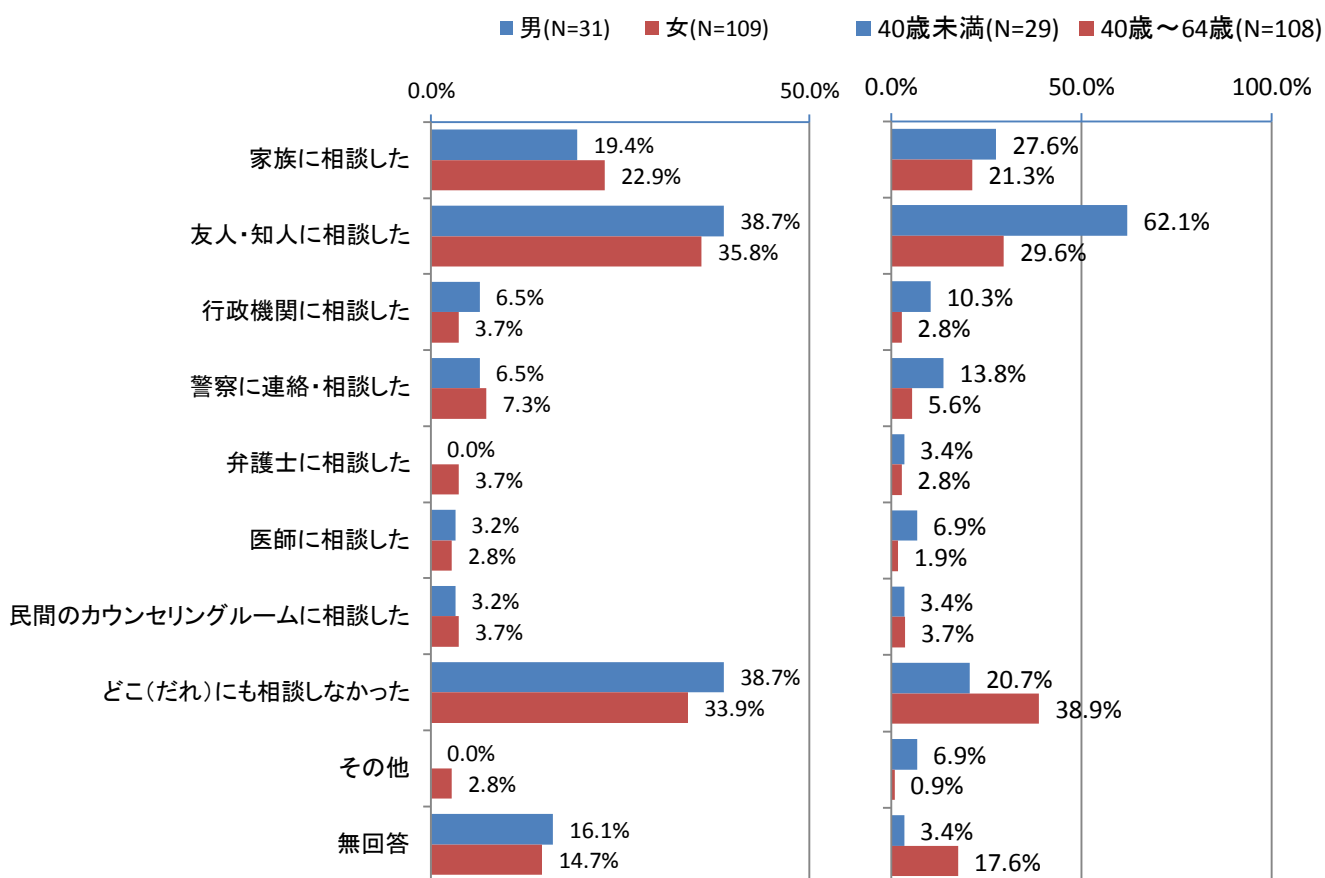
- ・受けた暴力による命の危険については、「ある」が、全体で15.0%、性別では男が3.2%、女が18.3%、年齢別では40歳未満が20.7%、40歳～64歳が13.9%となっている。



（４）受けた暴力に対する相談等

- ・受けた暴力についての相談先については、「友人・知人に相談した」が、全体で36.4%、性別では男が38.7%、女が35.6%、年齢別では40歳未満が62.1%、40歳～64歳が29.6%となっている。
- また、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、全体で35.0%、性別では男が38.7%、女が33.9%、年齢別では40歳未満が20.7%、40歳～64歳が38.9%となっている。
- ・どこ（だれ）にも相談しなかった理由については、「個人的なことなので、人に相談せず自分で解決しようと思ったから」が、全体で42.9%、性別では男が25.0%、女が48.6%、年齢別では40歳未満が66.7%、40歳～64歳が38.1%となっている。

（受けた暴力についての相談先）



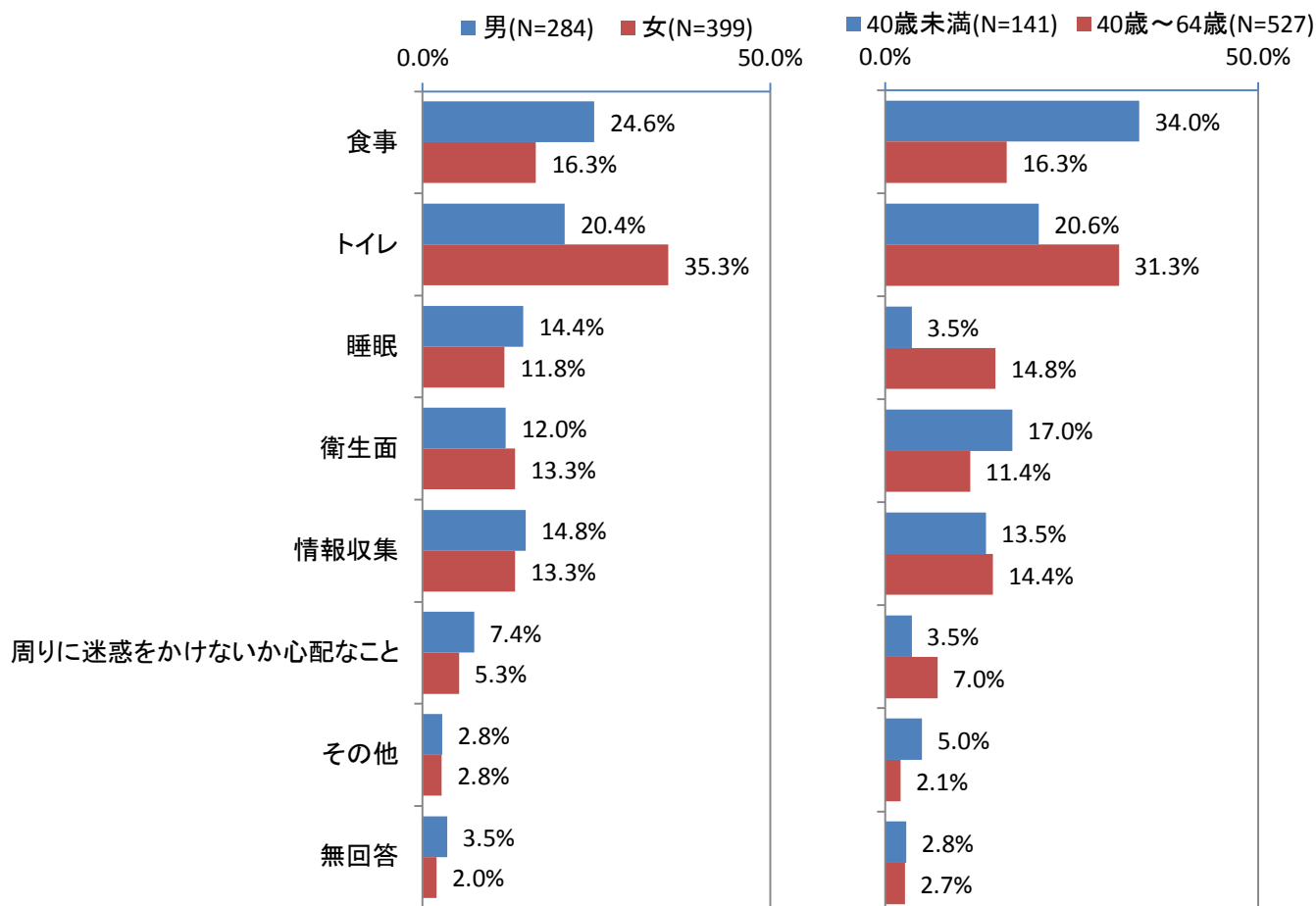
4 自殺について（P156～P158、P160～P162 参照）

- ・自殺したいと考えたことについては、「考えたことがある」が、全体で 6.7%、性別では男が 4.2%、女が 8.5%、年齢別では 40 歳未満が 9.9%、40 歳～64 歳が 6.1%となっている。
なお、自殺したいと考えたときの一番の原因については、「家庭問題」が 26.1%、「健康問題」が 19.6%、「経済・生活問題」が 17.4%となっている。
- ・自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 67.4%となっている。
なお、自殺に関する相談先の認知度については、「知らない」が、全体で 50.4%、性別では男が 55.3%、女が 46.9%、年齢別では 40 歳未満が 52.5%、40 歳～64 歳が 50.1%となっている。
- ・自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 66.0%、「自殺は防ぐことができる」が 65.2%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 62.1%、なお「考えたことはない」は 11.7%となっている。

5 防災について（P163～P170 参照）

- ・自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で 60.2%、性別では男が 60.9%、女が 59.6%、年齢別では 40 歳未満が 53.9%、40 歳～64 歳が 62.0%となっている。
 - ・災害発生時の家族との連絡方法に関する話し合いについては、「決めている」が、全体で 30.5%、性別では男が 28.9%、女が 31.6%、年齢別では 40 歳未満が 30.5%、40 歳～64 歳が 28.9%となっている。
 - ・非常持ち出し品の準備については、「準備している」が、全体で 14.5%、性別では男が 12.0%、女が 16.3%、年齢別では 40 歳未満が 9.2%、40 歳～64 歳が 15.9%となっている。
 - ・災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知っている」が、全体で 18.4%、性別では男が 19.4%、女が 17.8%、年齢別では 40 歳未満が 11.3%、40 歳～64 歳が 20.1%となっている。
 - ・避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が、全体で 29.1%、性別では男が 20.4%、女が 35.3%、年齢別では 40 歳未満が 20.6%、40 歳～64 歳が 31.3%となっている。
- なお、次いで「食事」が 19.8%、「情報収集」が 13.9%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



- ・町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で67.9%、性別では男が65.8%、女が69.4%、年齢別では40歳未満が66.0%、40歳～64歳が68.7%となっている。
- ・大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が、全体で55.2%、性別では男が56.7%、女が54.1%、年齢別では40歳未満が46.1%、40歳～64歳が57.1%となっている

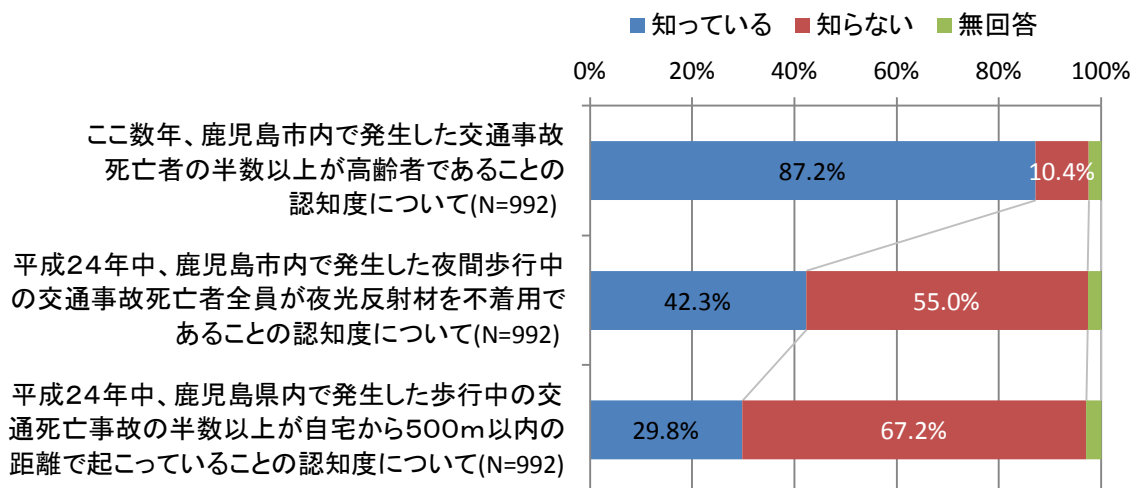
【高齢者】

1 交通安全について（P183～P186、P190～P192、P199～P210 参照）

（1）交通事故等に関する認知度について

- ・ここ数年、鹿児島市内で発生した交通事故死亡者の半数以上が高齢者であることの認知度については、「知っている」が、全体で 87.2%、性別では男が 88.0%、女が 87.0%、年齢別では 65歳～74歳が 87.9%、75歳以上が 87.6%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島市内で発生した夜間歩行中の交通事故死亡者全員が夜光反射材を不着用であることの認知度については、「知っている」が、全体で 42.3%、性別では男が 44.2%、女が 40.4%、年齢別では 65歳～74歳が 42.1%、75歳以上が 43.2%となっている。
- ・平成24年中、鹿児島県内で発生した歩行中の交通死亡事故の半数以上が自宅から500m以内の距離で起こっていることの認知度については、「知っている」が、全体で 29.8%、性別では男が 30.7%、女が 29.1%、年齢別では 65歳～74歳が 27.0%、75歳以上が 32.3%となっている。

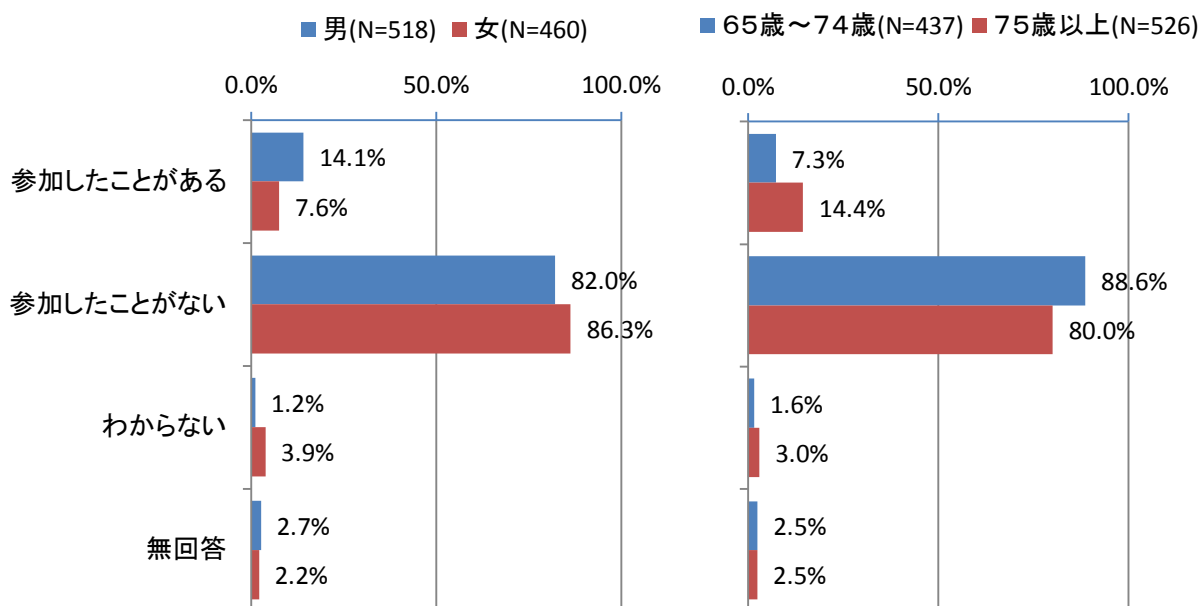
（交通事故等に関する認知度について）



（２）交通安全教室（講習会などを含む）について

- ・ 1年間の歩行者対象の交通安全教室（講習会などを含む）参加状況については、「参加したことがない」が、全体で83.7%、性別では男が82.0%、女が86.3%、年齢別では65歳～74歳が88.6%、75歳以上が80.0%となっている。

（交通安全教室（講習会などを含む）参加状況について）



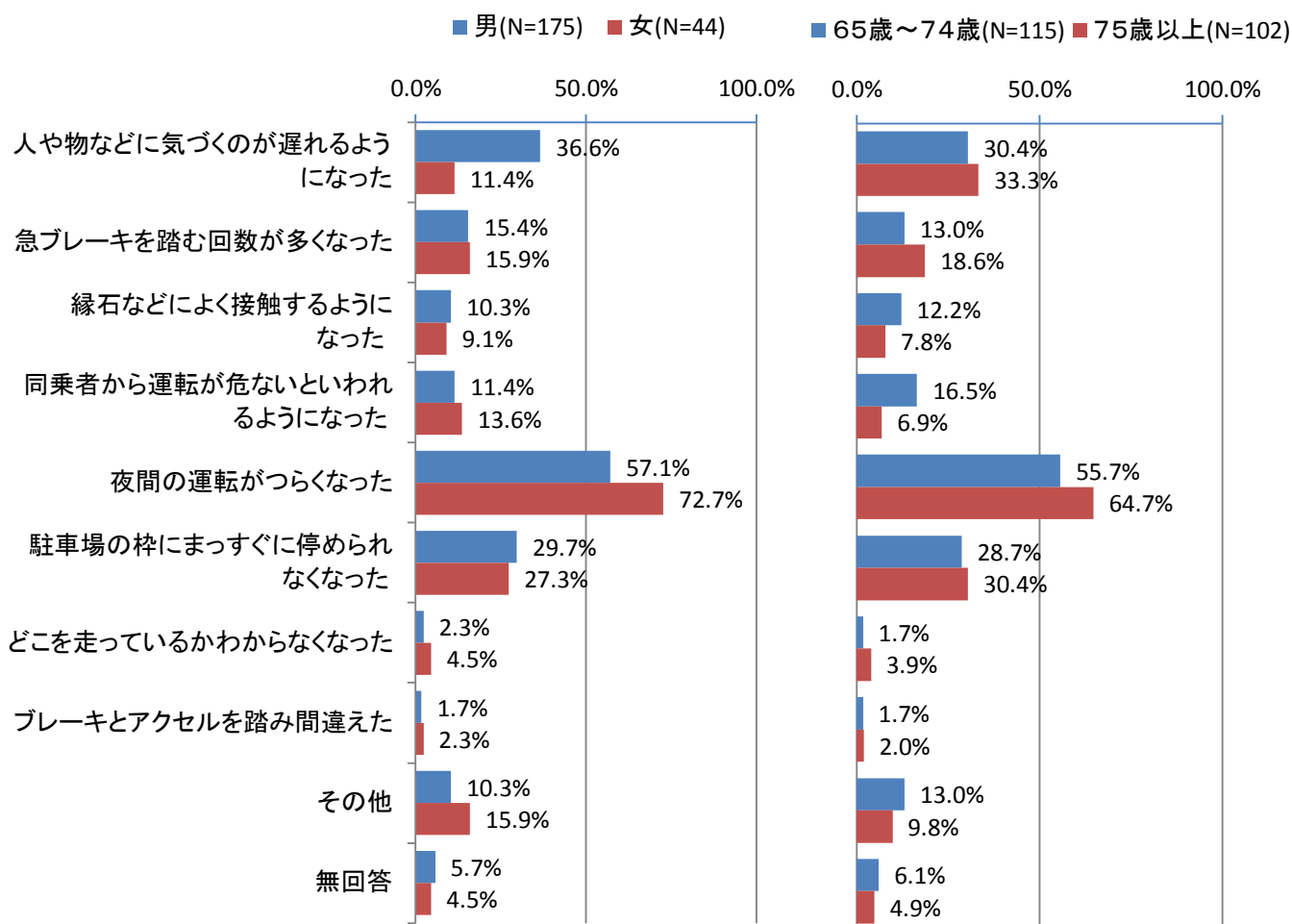
（３）夜光反射材の活用状況について

- ・ 夜間や薄暗いときの夜光反射材の活用状況については、「活用していない」が、全体で26.7%、性別では男が32.2%、女が20.9%、年齢別では65歳～74歳が33.0%、75歳以上が21.7%となっている。
- ・ 夜光反射材を活用していない理由については、「夜光反射材を持っていない」が、全体で67.9%、性別では男が70.7%、女が62.5%、年齢別では65歳～74歳が73.6%、75歳以上が61.4%となっている。

（４）体の衰えによる運転への影響について

- ・体の衰えによる運転への影響については、「ある」が、全体で 42.6%、性別では男が 45.3%、女が 36.1%、年齢別では 65歳～74歳が 37.6%、75歳以上が 51.3%となっている。
- ・体の衰えによる運転への影響については、「夜間の運転がづらくなった」が、全体で 60.0%、性別では男が 57.1%、女が 72.7%、年齢別では 65歳～74歳が 55.7%、75歳以上が 64.7%となっている。

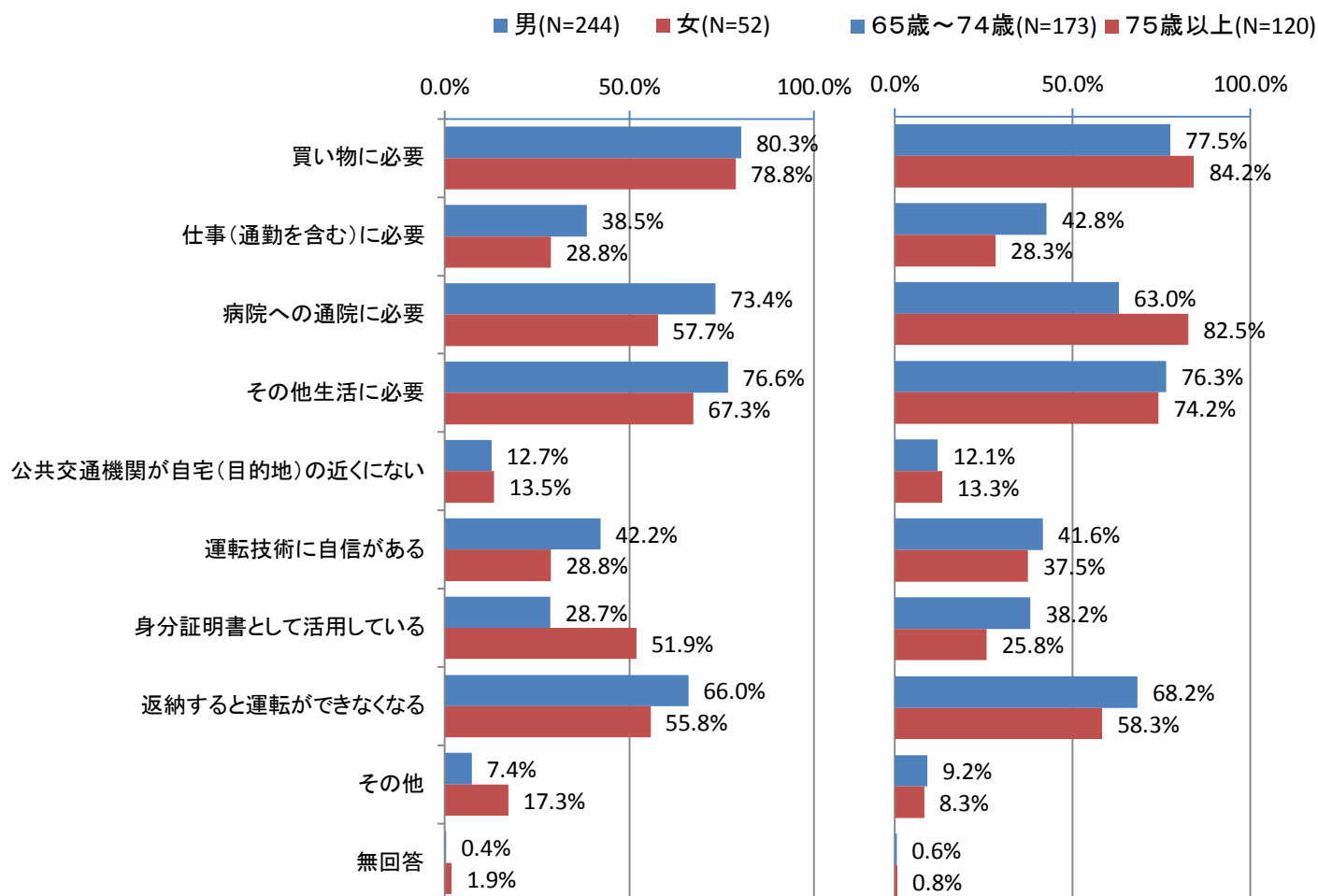
（体の衰えによる運転への影響について）



（５）運転免許の自主返納について

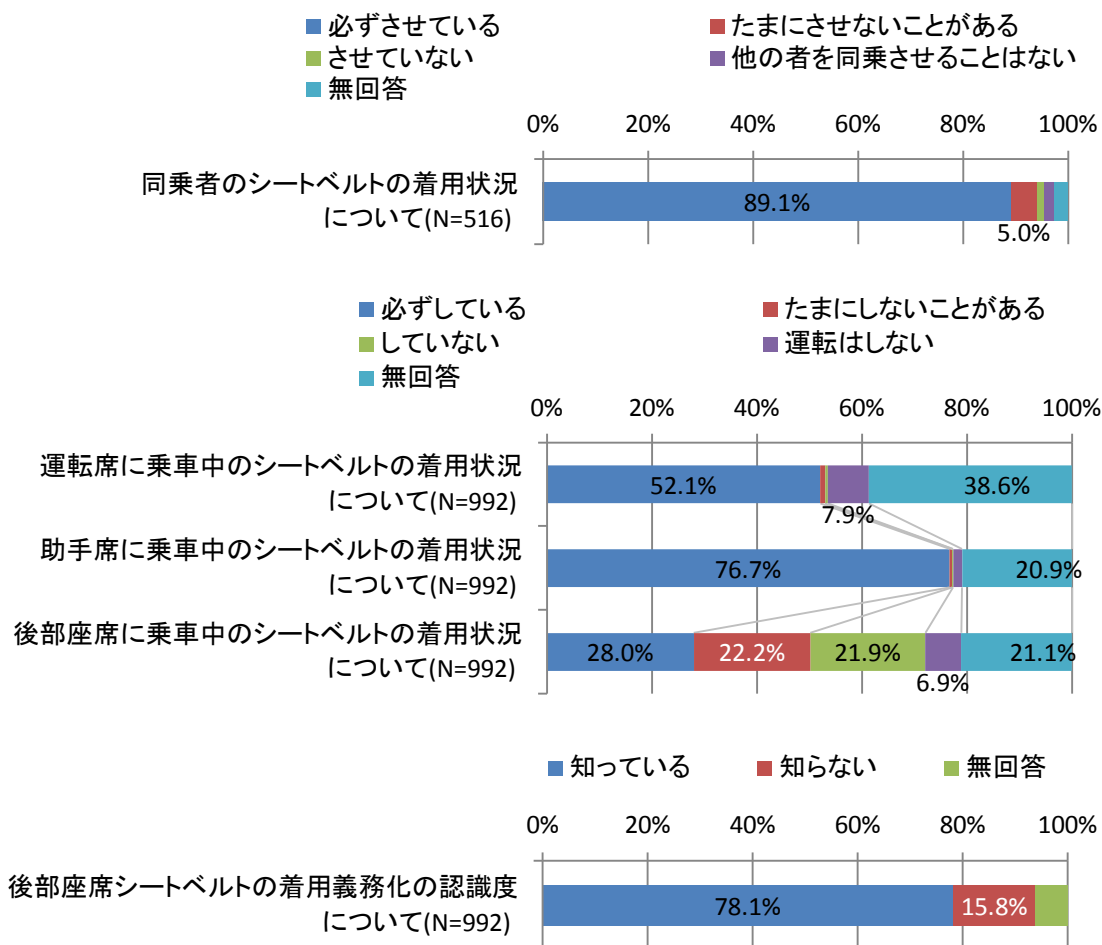
- ・「高齢者運転免許自主返納支援制度」の認知度については、「知っている」が、全体で 89.6%、性別では男が 89.7%、女が 90.1%、年齢別では 65歳～74歳が 90.9%、75歳以上が 87.9%となっている。
- ・運転免許の自主返納については、「自主返納をしたいと思わない」が、全体で 53.6%、性別では男が 60.0%、女が 36.9%、年齢別では 65歳～74歳が 52.4%、75歳以上が 56.1%となっている。
- ・運転免許を自主返納しない理由については、「買い物に必要」が、全体で 80.2%、性別では男が 80.3%、女が 78.8%、年齢別では 65歳～74歳が 77.5%、75歳以上が 84.2%となっている。

（運転免許を自主返納しない理由について）



（6）シートベルトの着用状況等について

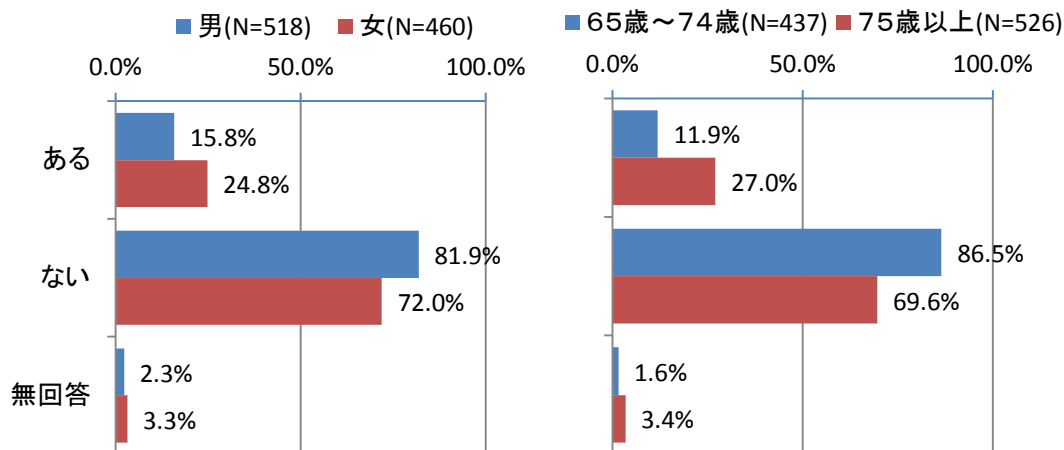
- ・同乗者のシートベルトの着用状況については、「必ずさせている」が、全体で 89.1%、性別では男が 88.3%、女が 91.8%、年齢別では 65 歳～74 歳が 91.5%、75 歳以上が 86.4%となっている。
- ・運転席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 52.1%、性別では男が 74.1%、女が 27.6%、年齢別では 65 歳～74 歳が 70.0%、75 歳以上が 38.0%となっている。
- ・助手席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 76.7%、性別では男が 83.4%、女が 70.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 89.7%、75 歳以上が 66.9%となっている。
- ・後部座席に乗車中のシートベルトの着用状況については、「必ずしている」が、全体で 28.0%、性別では男が 31.7%、女が 24.3%、年齢別では 65 歳～74 歳が 25.9%、75 歳以上が 30.0%となっている。
- ・後部座席シートベルトの着用義務化の認識度については、「知っている」が、全体で 78.1%、性別では男が 80.5%、女が 75.7%、年齢別では 65 歳～74 歳が 81.5%、75 歳以上が 75.7%となっている。



2 転倒の経験等について（P212～P220）

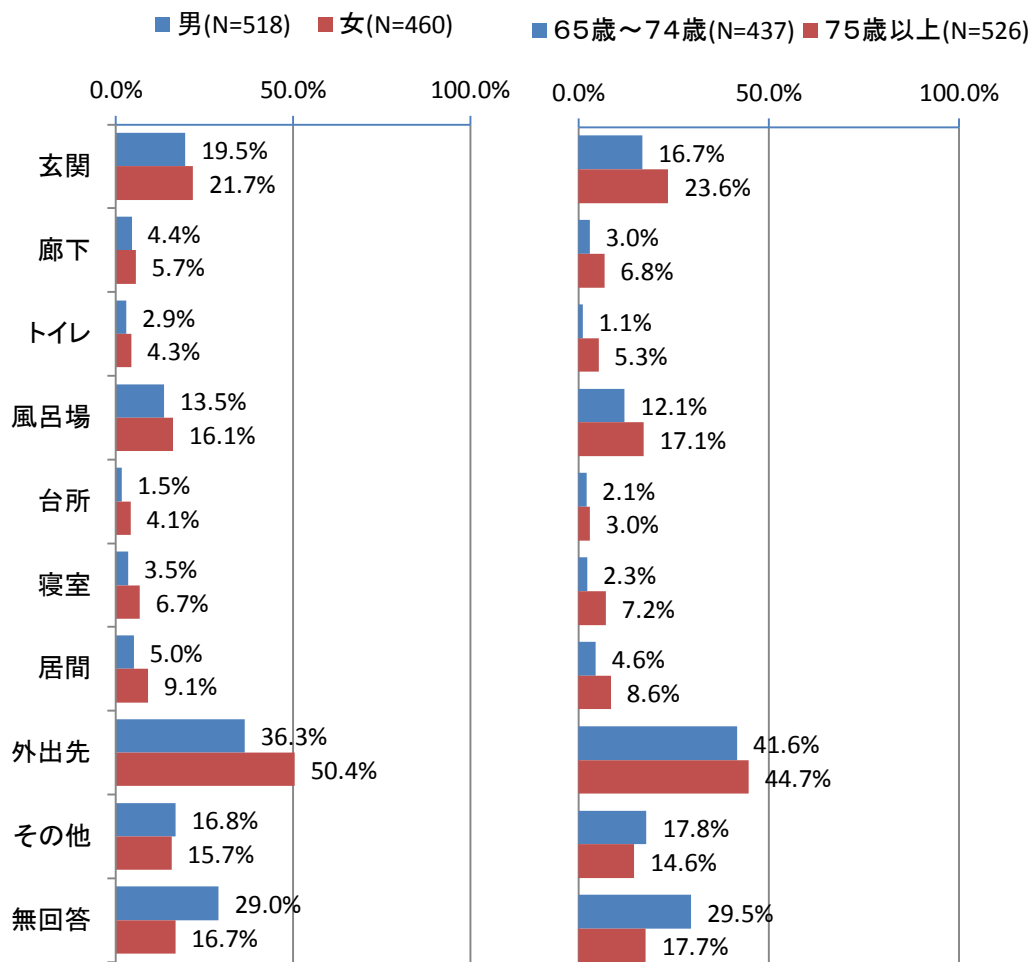
- ・1年間の転倒経験については、「ある」が、全体で20.0%、性別では男が15.8%、女が24.8%、年齢別では65歳～74歳が11.9%、75歳以上が27.0%となっている。

（1年間の転倒経験について）



- ・1年間に転倒しそうになりヒヤリとした経験については、「ある」が、全体で41.2%、性別では男が34.2%、女が50.0%、年齢別では65歳～74歳が33.0%、75歳以上が48.7%となっている。
- ・転倒に対する不安については、「ある」が、全体で59.3%、性別では男が45.4%、女が75.2%、年齢別では65歳～74歳が47.6%、75歳以上が69.4%となっている。
- ・転びやすい場所については、「外出先」が、全体で42.7%、性別では男が36.3%、女が50.4%、年齢別では65歳～74歳が41.6%、75歳以上が44.7%となっている。
- ・歩く速度が遅くなってきたと思うかについては、「思う」が、全体で66.6%、性別では男が62.5%、女が72.2%、年齢別では65歳～74歳が51.3%、75歳以上が79.8%となっている。
- ・歩幅がせまくなってきたと思うかについては、「思う」が、全体で62.7%、性別では男が56.9%、女が69.6%、年齢別では65歳～74歳が46.0%、75歳以上が77.0%となっている。
- ・手押し車の使用については、「使っている」が、全体で7.0%、性別では男が2.5%、女が12.2%、年齢別では65歳～74歳が0.9%、75歳以上が12.2%となっている。
- ・杖の使用については、「使っている」が、全体で16.4%、性別では男が11.6%、女が22.4%、年齢別では65歳～74歳が4.8%、75歳以上が25.9%となっている。

（転びやすい場所について）



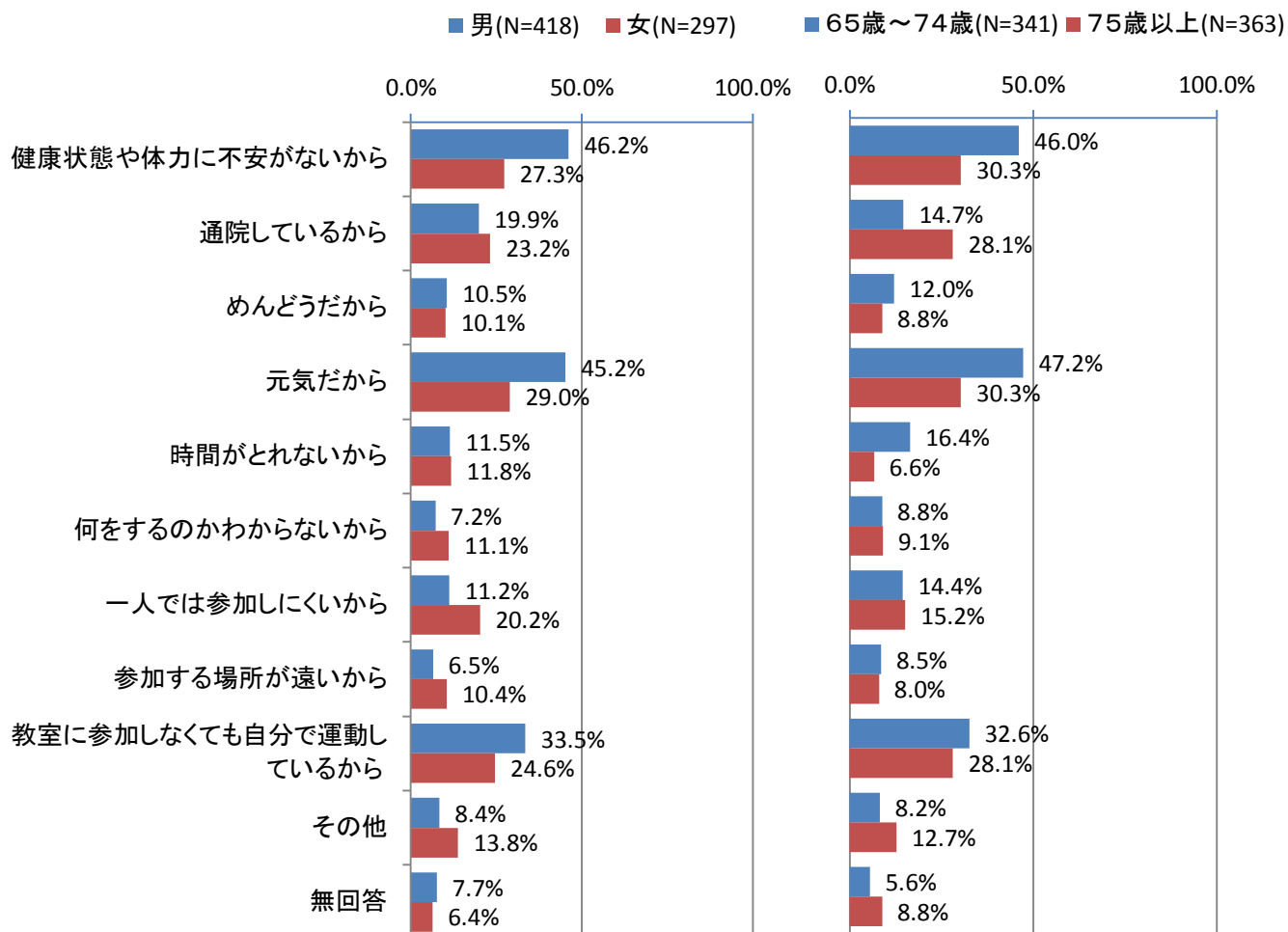
3 口腔機能について（P221～P226）

- ・固いものが食べづらくなったかについては、「はい」が、全体で 33.8%、性別では男が 32.8%、女が 35.4%、年齢別では 65歳～74歳が 24.3%、75歳以上が 42.0%となっている。
- ・お茶や汁物等でむせることがあるかについては、「ある」が、全体で 26.2%、性別では男が 25.1%、女が 27.6%、年齢別では 65歳～74歳が 19.2%、75歳以上が 32.7%となっている。
- ・飲み込みに対する不安があるかについては、「とても不安を感じる」と「やや不安を感じる」の合計が、全体で 20.0%、性別では男が 16.4%、女が 24.4%、年齢別では 65歳～74歳が 11.7%、75歳以上が 27.2%となっている。
- ・食物をのどにつまらせたことがあるかについては、「ある」が、全体で 11.0%、性別では男が 10.2%、女が 12.0%、年齢別では 65歳～74歳が 8.2%、75歳以上が 13.7%となっている。
- ・口の渇きが気になるかについては、「気になる」が、全体で 31.8%、性別では男が 30.1%、女が 33.7%、年齢別では 65歳～74歳が 26.5%、75歳以上が 37.1%となっている。

4 介護予防について（P227～P229 参照）

- ・介護予防のための教室等の参加については、「参加していない」が、全体で72.7%、性別では男が80.7%、女が64.6%、年齢別では65歳～74歳が78.0%、75歳以上が69.0%となっている。
- ・介護予防教室に参加していない理由については、「元気だから」が、全体で38.6%、性別では男が45.2%、女が29.0%、年齢別では65歳～74歳が47.2%、75歳以上が30.3%となっている。

（介護予防教室に参加していない理由について）



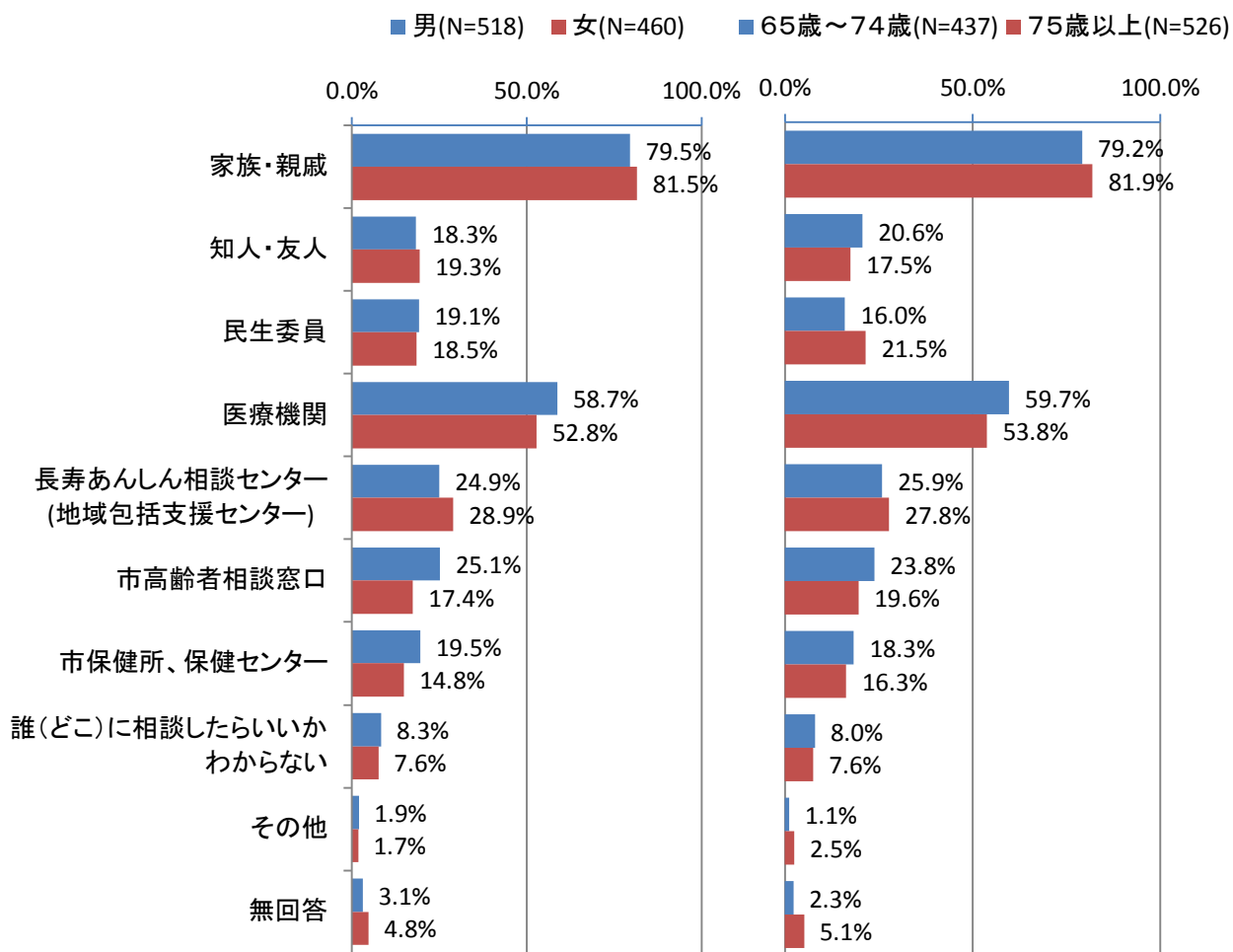
5 住まいに関する現状と今後の希望について（P231～P234、P236 参照）

- ・現在の住まいについては、「一戸建て持ち家」が、全体で 81.7%、性別では男が 84.2%、女が 79.3%、年齢別では 65歳～74歳が 84.2%、75歳以上が 80.6%となっている。
- ・要介護等になったときでも住み慣れた家（地域）で暮らしたいかについては、「住み慣れた我が家（地域）での生活を希望」が、全体で 74.5%、性別では男が 75.9%、女が 73.5%、年齢別では 65歳～74歳が 73.5%、75歳以上が 76.2%となっている。
- ・現在の住まいは住みやすいと思うかについては、「思う」が、全体で 86.9%、性別では男が 88.2%、女が 86.5%、年齢別では 65歳～74歳が 89.5%、75歳以上が 85.7%となっている。

6 認知症に対する理解について（P240～P246 参照）

- ・認知症の認知度については、「知っている」が、全体で 91.9%、性別では男が 94.2%、女が 90.2%、年齢別では 65歳～74歳が 95.0%、75歳以上が 90.5%となっている。
- ・認知症は病気だと思うかについては、「思う」が、全体で 64.0%、性別では男が 66.0%、女が 62.0%、年齢別では 65歳～74歳が 67.3%、75歳以上が 61.8%となっている。
- ・認知症に対する不安や心配があるかについては、「ある」が、全体で 42.8%、性別では男が 37.5%、女が 49.1%、年齢別では 65歳～74歳が 42.6%、75歳以上が 42.8%となっている。
- ・認知症サポーターについては、「知らない」が、全体で 38.0%、性別では男が 40.0%、女が 36.5%、年齢別では 65歳～74歳が 40.3%、75歳以上が 36.7%となっている。
- ・認知症の勉強会に参加したいかについては、「参加したい」が、全体で 32.8%、性別では男が 28.6%、女が 37.0%、年齢別では 65歳～74歳が 34.3%、75歳以上が 31.4%となっている。
- ・認知症の相談先については、「家族・親戚」が、全体で 80.2%、性別では男が 79.5%、女が 81.5%、年齢別では 65歳～74歳が 79.2%、75歳以上が 81.9%となっている。

（認知症の相談先について）

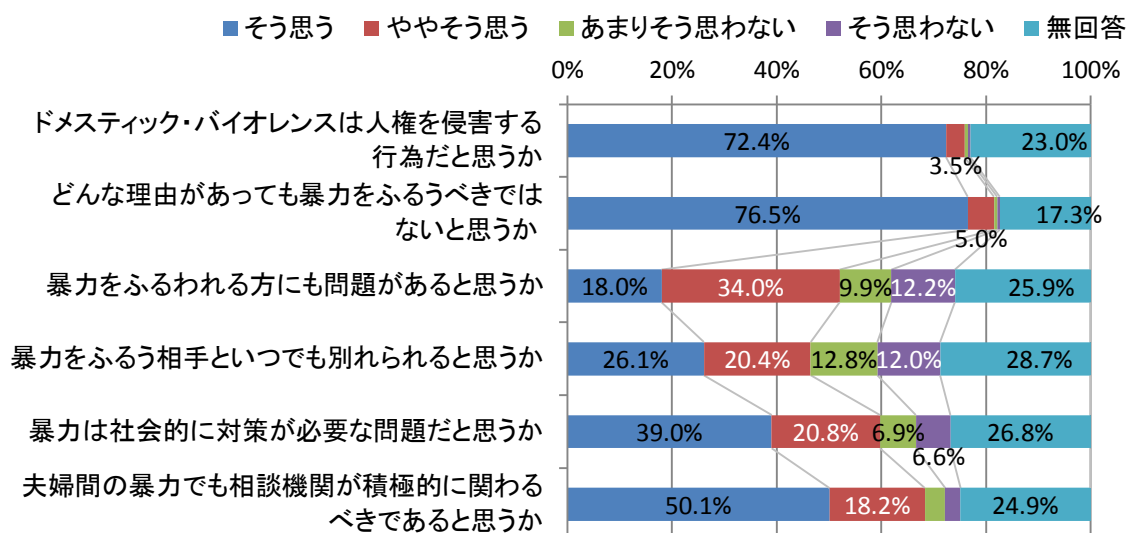


7 暴力（DV）について（P247～262 参照）

（1）暴力について

- ・ドメスティック・バイオレンスは人権を侵害する行為であると思うかについては、「そう思う」が、全体で 72.4%、性別では男が 76.6%、女が 68.7%、年齢別では 65歳～74歳が 84.2%、75歳以上が 64.6%となっている。
- ・どんな理由があっても暴力をふるうべきではないと思うかについては、「そう思う」が、全体で 76.5%、性別では男が 77.6%、女が 76.5%、年齢別では 65歳～74歳が 83.1%、75歳以上が 73.4%となっている。
- ・暴力をふるわれる方にも問題があると思うかについては、「そう思う」が、全体で 18.0%、性別では男が 21.0%、女が 15.0%、年齢別では 65歳～74歳が 20.4%、75歳以上が 16.9%となっている。
- ・暴力をふるう相手といつでも別れられると思うかについては、「そう思う」が、全体で 26.1%、性別では男が 27.6%、女が 24.8%、年齢別では 65歳～74歳が 30.2%、75歳以上が 23.6%となっている。
- ・暴力は個人的な問題ではなく、社会的に対策が必要な問題だと思うかについては、「そう思う」が、全体で 39.0%、性別では男が 41.9%、女が 36.1%、年齢別では 65歳～74歳が 43.7%、75歳以上が 36.7%となっている。
- ・夫婦間の暴力であっても、行政などの相談機関が積極的に関わるべきであると思うかについては、「そう思う」が、全体で 50.1%、性別では男が 54.6%、女が 45.7%、年齢別では 65歳～74歳が 56.5%、75歳以上が 46.6%となっている。

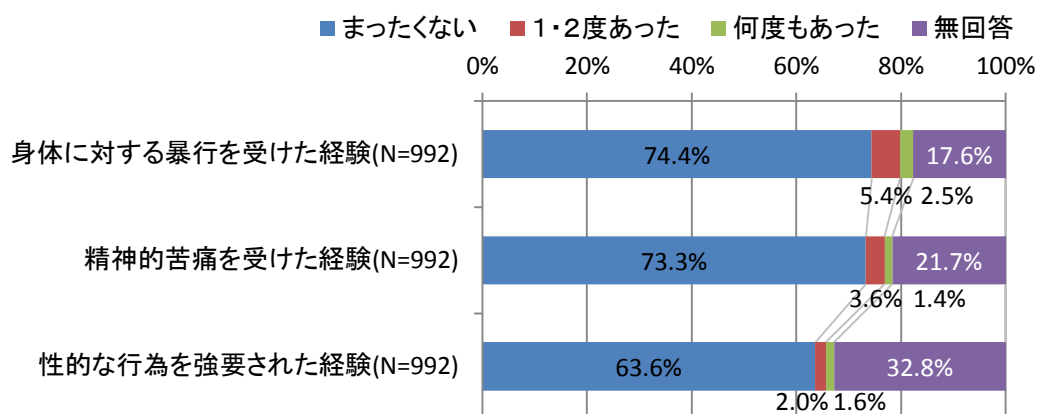
（暴力について）



（２）暴力を受けた経験について

- ・身体に対する暴行を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 7.9%、性別では男が 3.1%、女が 13.7%、年齢別では 65歳～74歳が 13.1%、75歳以上が 4.2%となっている。
- ・精神的苦痛を受けた経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 5.0%、性別では男が 3.5%、女が 6.9%、年齢別では 65歳～74歳が 7.1%、75歳以上が 3.1%となっている。
- ・性的な行為を強要された経験については、「１・２度あった」と「何度もあった」の合計が、全体で 3.6%、性別では男が 0.4%、女が 7.2%、年齢別では 65歳～74歳が 5.5%、75歳以上が 2.0%となっている。

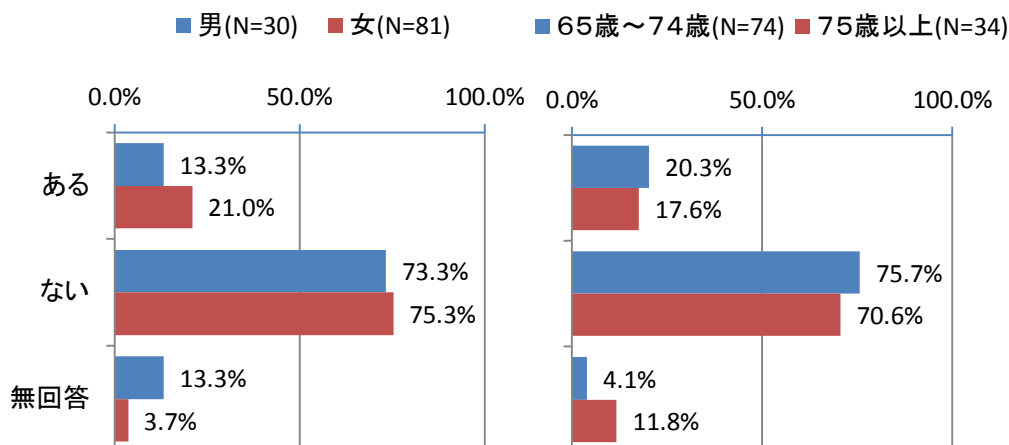
（暴力を受けた経験について）



（３）受けた暴力による命の危険

- ・受けた暴力による命の危険については、「ある」が、全体で 18.8%、性別では男が 13.3%、女が 21.0%、年齢別では 65歳～74歳が 20.3%、75歳以上が 17.6%となっている。

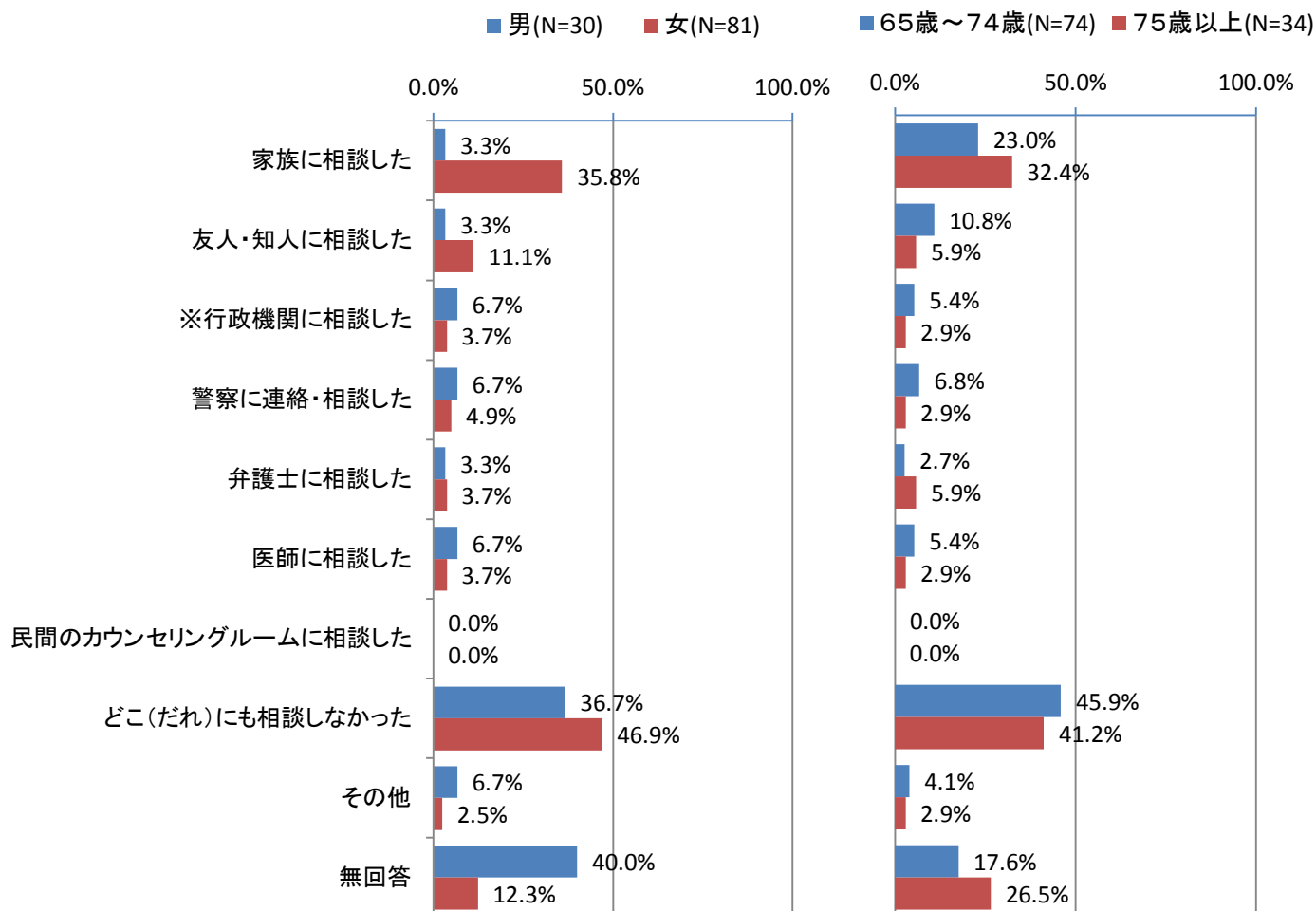
（受けた暴力による命の危険について）



（４）受けた暴力に対する相談等

- ・受けた暴力に対する相談については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が、全体で 43.8%、性別では男が 36.7%、女が 46.9%、年齢別では 65歳～74歳が 45.9%、75歳以上が 41.2%となっている。
- ・受けた暴力に対して相談をしなかった理由については、「相談するほどのことではないと思ったから」が、全体で 44.9%、性別では男が 54.5%、女が 42.1%、年齢別では 65歳～74歳が 50.0%、75歳以上が 35.7%となっている。

（受けた暴力についての相談先について）



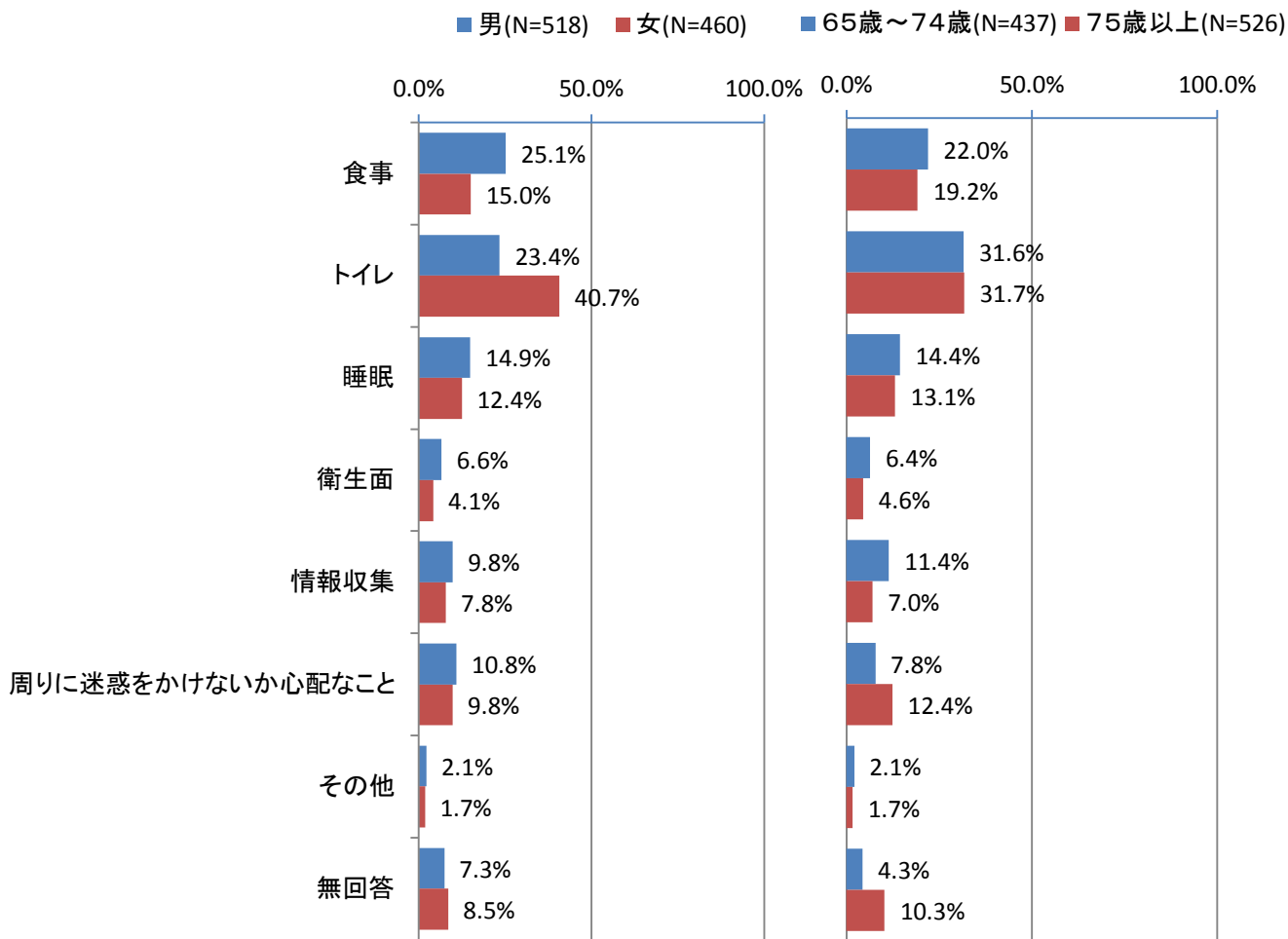
8 自殺について（P269～P274 参照）

- ・自殺したいと考えたことについては、「考えたことがある」が、全体で 4.1%、性別では男が 4.4%、女が 3.9%、65歳～74歳が 4.3%、75歳以上が 4.2%となっている。
なお、自殺したいと考えた一番の原因については、「健康問題」が 36.6%となっている。
- ・自殺したいと考えたときの相談先については、「相談していない」が 51.2%となっている。
なお、自殺に関する相談先の認知度については、「知らない」が、全体で 56.0%、性別では男が 59.3%、女が 52.8%、年齢別では 65歳～74歳が 59.3%、75歳以上が 53.6%となっている。
- ・自殺について知っていることについては、「自分のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関へ相談することは大切である」が 45.3%、「身近な人のうつ病のサインに気づいたとき、医療機関への相談を勧めることは大切である」が 43.8%、「自殺は防ぐことができる」が 43.3%となっている。なお「考えたことはない」は 25.4%となっている。

9 防災について（P275～P283 参照）

- ・自宅に一番近い指定避難所の把握については、「決めている（知っている）」が、全体で 57.8%、性別では男が 59.1%、女が 57.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 62.5%、75 歳以上が 54.6%となっている。
- ・災害発生時の家族との連絡方法を決めているかについては、「決めている」が、全体で 46.1%、性別では男が 47.1%、女が 45.2%、年齢別では 65 歳～74 歳が 44.4%、75 歳以上が 48.5%となっている。
- ・非常持ち出し品の準備については、「準備していない」が、全体で 67.1%、性別では男が 67.4%、女が 67.0%、年齢別では 65 歳～74 歳が 72.3%、75 歳以上が 63.5%となっている。
- ・災害発生時の自力避難については、「できる」が、全体で 74.1%、性別では男が 82.8%、女が 64.8%、年齢別では 65 歳～74 歳が 88.8%、75 歳以上が 62.9%となっている。
- ・避難所に避難した場合に一番不安なことについては、「トイレ」が、全体で 31.1%、性別では男が 23.4%、女が 40.7%、年齢別では 65 歳～74 歳が 31.6%、75 歳以上が 31.7%となっている。

（避難所に避難した場合に一番不安なこと）



- ・災害時要援護者避難支援制度の認知度については、「知らない」が、全体で62.0%、性別では男が61.4%、女が63.3%、年齢別では65歳～74歳が64.3%、75歳以上が60.5%となっている。
- ・町内会において事前に家族情報を把握する必要性とその賛否については、「必要性があり、賛成である」が、全体で73.9%、性別では男が75.3%、女が72.8%、年齢別では65歳～74歳が73.2%、75歳以上が75.7%となっている。
- ・大正噴火級の大噴火が起こる可能性の認知度については、「知っている」が、全体で60.7%、性別では男が63.5%、女が58.5%、年齢別では65歳～74歳が62.2%、75歳以上が60.5%となっている。

